

梵文法華經写本の研究

塚本啓祥

§1. 梵文法華經の刊本

梵文法華經の写本は、1821年にイギリスのネパール駐在公使ホジソン (B. H. Hodgson) によって蒐集されたのが最初であり、フランスのビュルヌフ (E. Burnouf) はこの写本を仏訳し、かれの死後モール (J. Mohl) によって出版された⁽¹⁾。

次いで、オランダのケルン (H. Kern) によって英訳が⁽²⁾公刊されたが、テキストの校訂版⁽³⁾〔『梵文法華經写本集成・ローマ字本』(以下 SMSR と略す)では Kn と表記)は、ケルンと南條文雄博士によって“*Bibliotheca Buddhica*” Xの中に、はじめて出版された。このテキストが準拠した写本は、

A : 英国王立アジア協会所蔵本〔SMSR R〕

B : 大英博物館所蔵本〔SMSR B〕

Ca : ケンブリッジ大学図書館所蔵本 Add.1682 (Add. 1683 の誤り)〔SMSR C4〕

Cb : 同 Add. 1683 (Add. 1684 の誤り)〔SMSR C5〕

K : 河口慧海師将来・東京大学図書館所蔵本 No. 414〔SMSR T8〕

W : ワッターズ (Watters) 将来本

O : カシュガル (Kashgar) 出土ペトロフスキー (N. Petrovsky) 将来・レニングラード科学アカデミー所蔵本〔SMSR O〕

P : フーコー (Ed. Foucaux) によって出版された石版刷りのテキスト

となっている。これらの中で西域出土のO本を除く写本のすべてはネパール系に属している。ケルンはO本とネパール系写本との相違箇所⁽⁴⁾に註記しているが、それはすべてにわたっているとは言いがたい。両者のあいだに著しい相違があることは、本書のテキストの対照表によって明らかであり、ケルンの出版が両系統の写本を混淆していることは、多くの問題を含んでいる。

つづいて荻原雲来教授と土田勝弥氏によって、東洋文庫所蔵の河口本〔SMSR K〕ならびにチベット語訳と漢訳を参照した校訂版⁽⁴⁾〔SMSR W〕が刊行された。またダット (N. Dutt) は、特定の写本を底本とすることなく、ケルン・南條本と荻原・土田本を参照した校訂版⁽⁵⁾〔SMSR D〕を“*Bibliotheca Indica*” No. 276中に刊行し、中央アジア出土の写本(大谷本)に対するミロノフ (N. D. Mironov) の解説を註記している。さらにヴァイドヤ (P. L. Vaidya) も校訂版⁽⁶⁾〔SMSR V〕を“*Buddhist Sanskrit Texts*” No. 6として公刊したが、上記のテキスト出版と同様の編集方針が踏襲されており、既刊の版本を参照して適当に取捨しているにすぎない。

梵文法華經の写本は、出土の地域によって、

1. ネパール・チベット本
2. カシミール (ギルギット) 本
3. 西域 (中央アジア) 本

の3種に分類できる。したがって、まず各系統ごとに写本を比較研究する必要がある。そのためには、それぞれの写本に基づく客観的なテキストの作成が、原典研究の第一段階でとられるべき作業であろう。1970年までに刊行された法華経原典の研究に関する文献目録として、湯山明博士の出版⁽⁷⁾ (以下 *Yuyama* と略す) は多大の便益を与える。

§2. 梵文写本の概要と研究

(1) ネパール・チベット本

① 東洋文庫所蔵 (河口) 本 [*SMSR K* ; *Yuyama K*]

河口慧海師がチベットのシャルル・ゴンパ (Shālu dGonpa) 寺から1916年に日本へ将来した梵文法華経写本の1本は、現在、東洋文庫 (東京) に所蔵されている。貝葉本、182葉 (fol. 167以降の頁付に混乱がある)、5/6行。巻頭 (1b1-2a3) にラーフラバドラ (Rāhulabhadra) の法華経讚頌 (Saddharmapuṇḍarīka-stava)⁽⁸⁾、巻末 (181a3-182b5) に奥書⁽⁹⁾がある。フォーゲル (C. Vogel) によれば、A. D. 1070年に比定される⁽¹⁰⁾。

この写本の写真版は河口慧海師と池田澄達氏によって1926年に、ローマ字本は戸田宏文教授によって1980~85年に出版されている⁽¹¹⁾。

② 民族文化宮図書館所蔵本 [*SMSR Pk* ; *Yuyama Sb*]

サーンクリトヤーヤナ (Rāhula Sāṅkrītyāyana) が1936年のチベット調査旅行の際に、チベットのサキヤ (Sa-skyā) 寺で2本の梵文法華経写本⁽¹³⁾を発見した。その中の1本は現在、民族文化宮図書館 (北京) に保管されており (梵文写本第0004号)、その写真版⁽¹⁴⁾が1984年に刊行された。ラーフラバドラの讚頌 (1b1-2a1) と奥書 (137a1-3) がある。貝葉本、137葉、クティラー文字、6行。この書写年代を季羨林 (Ji Xiaolin) 教授は A. D. 1082年に比定しているが、これはサーンクリトヤーヤナとペティック (L. Petech) に基づくものとみられる⁽¹⁵⁾。

③ ケンブリッジ大学図書館所蔵本

ケンブリッジ大学図書館 Cambridge University Library (ケンブリッジ) には6種 (実際には7種)⁽¹⁶⁾ のネパール系梵文法華経写本が保管されている。

1) Add. 1032 [*SMSR C1* ; *Yuyama Cd*] : 紙本、90葉、14-20行、近代。巻末に奥書 (90a7-9) がある。

2) Add. 1324 [*SMSR C2* ; *Yuyama Ce*] : 紙本、96葉、13-17行、近代。巻末に奥書 (96a1-

4) がある。

3) Add. 1682 [SMSR C3; Yuyama Ca]: 貝葉本, 83葉, 5/6行。第 XI 章末 (83b) で終る。ベンドール (Bendall) は11世紀の書写と推定する⁽¹⁷⁾。

4) Add. 1683 [SMSR C4; Yuyama Cb]: 貝葉本, 141葉 (fols. 121-131 の頁付に混乱がある), 5-7行。巻末に奥書 (139a6-140a5) がある。ペテックとフォーゲルは A. D. 1039 に比定する。しかしバルフは A. D. 1036/1037 と推定している⁽¹⁸⁾。

5) Add. 1684 [SMSR C5; Yuyama Cc]: 貝葉本。元来は156/157葉 (fols. 2-10, 10', 11-117, 119-152, 154-156), 5/6行。巻末に奥書 (156b4-6) がある。ペテックは A. D. 1065 年に, フォーゲルは A. D. 1064/1065 年に比定するが, バルフは A. D. 1063/1064 年と推定している⁽¹⁹⁾。第 XV 章を第 XVI* 章と表記し, 以下第 XXVIII* 章まで誤記がつづいている。

6) Add. 2197 [SMSR C6; Yuyama Cf]: ベンドール目録には記載されていない (cf. Baruch, *op. cit.*, p. 2)。貝葉本, 131葉, 5/6行。讃頌 (*1b1-5; fol. 2 を欠く) と奥書 (131b2-131b6) がある。第 XV 章を第 XVI* 章と表記し, 以下第 XXVIII* 章まで誤記がつづく。fols. 7, 42, 57, 75, 115, 121, 122 はネーワーリー文字で補充されている。ペテックとフォーゲルは A. D. 1093 年と推定するが, バルフは A. D. 1091/1092 年に比定する⁽²⁰⁾。ネーワーリー後期文字による第 2 の奥書は, フォーゲルによれば A. D. 1686 年と推定されるが, バルフは A. D. 1685/1686 年に比定する⁽²¹⁾。

7) Add. 2197* [SMSR C7=C6*; Baruch Cfα]: Add. 2197 の末尾に付せられた 1 葉 (fol.*132) は, 第 XXVII 章 (Kn 485.8-487.1) に相当する部分と奥書を含み, 前の部分が失われた他の写本の最後の葉とみなされる。ペテックは A. D. 1066 年に, フォーゲルは A. D. 1065 年に比定しているが, バルフは A. D. 1063/1064 年と推定している⁽²²⁾。

④ 大英博物館所蔵本 [SMSR B; Yuyama B]

大英博物館 British Museum (ロンドン) 所蔵⁽²³⁾の写本 Or. No. 2204: 貝葉本, 175葉 (fols. 1-27, 29-176), 6行。fol. 125 と fol. 126 のあいだに第 XV-XVII 章に相応するテキスト (Kn. 319.6-350.3) を欠いている。日付はないが, バルフは A. D. 11/12 世紀の書写と推定している⁽²⁴⁾。

⑤ 英国王立アジア協会所蔵本 [SMSR R; Yuyama R]

英国の王立アジア協会 Royal Asiatic Society of Great Britain and Ireland (ロンドン) 所蔵⁽²⁵⁾(ホジソン蒐集)の写本 No. 6: 紙本, 173葉, ネーワーリー文字, 6行。奥書 (173b2-7) はあるが日付はない。バルフは Cd (=C₁), Ce (=C₂), Aa (=A₃), Ac (=A₂) と同一グループに分類する⁽²⁶⁾。18世紀の書写と推定しうる。

⑥ フランスの国立図書館所蔵本

フランスの国立図書館 Bibliothèque National (パリ) には 2 種の梵文法華經写本が所蔵されて

おり、ともにビュルヌフが仏訳に使用している。

1) Ms. Nos.138-139 [SMSR P1; Yuyama Pa]: ビュルヌフ蒐集写本 No. 99. 紙本, 224葉 (1b-112b と 113a-224a の2帙; fol. 167 重複, fol. 176 欠番), デーヴァナーガリー文字, 9行。奥書 (223b4-224a3) がある。日付はないが19世紀の書写と推定される。

2) Ms. 140-141 [SMSR P2; Yuyama Pb]: ビュルヌフ蒐集写本 No. 100. 紙本, 205葉 (1b-103b と 104a-205a の2帙), ネーワーリー文字, 6行。奥書 (204b6-205a6) がある。フォーゲルは A. D. 1826 年に比定する。⁽²⁸⁾

⑦ アジア協会所蔵本 [SMSR P3; Yuyama Pc]

アジア協会 Soci t  Asiatique (パリ) には1本の梵文法華經写本が所蔵されている。MS. No. 2. 紙本, 248葉, 6行。日付はないが、フィリオザは A. D. 19世紀初頭と推定する。ビュルヌフの仏訳の底本で、フーコーの出版に用いられた。⁽²⁹⁾

⑧ 東京大学図書館所蔵本

東京大学図書館 (東京) には河口慧海師の蒐集になる9本の梵文法華經写本が所蔵されている。⁽³⁰⁾

1) No. 102(I) (Old number = ON. 423) [SMSR T1; Yuyama Ti]: Kirtiviṣayā-vadānaparikarmakathā の標題が付せられている。紙本, 9葉, ネーワーリー文字, 7-9行。序品相当部分 (1a1-5; Kn 1.5-4.10 の抜萃), 法華經第 XXII 薬王菩薩本事品相当部分 (1a5-7b3=Kn 404.1-419.11), 後分 (7b3-9b9) より成り立っている。

2) No. 408 (ON. 37) [SMSR T2; Yuyama Ta]: 貝葉本, 125葉 (4a-137'a, 中間に欠落あり), シッターンタ文字, 7行。第I章の初 (Kn-9.10) および第 XXIII 章の後半以降 (Kn 435.12-) に欠落がある。日付はないが、バルフは A. D. 11世紀と推定している。⁽³¹⁾

3) No. 409 (ON. 46) [SMSR T3; Yuyama Tb]: 紙本, 231葉, ネーワーリー文字, 7-9行。讃頌 (1b1-2a2) と奥書 (231a6-231b6) を付す。日付はないが、近代の書写。

4) No. 410 (ON. 47) [SMSR T4; Yuyama Tc]: 紙本, 194葉, ネーワーリー文字, 7/8行。奥書 (193b5-194b9) がある。バルフは A. D. 1799/1800 年に比定するが、フォーゲルは A. D. 1806 年に訂正している。⁽³²⁾

5) No. 411 (ON. 49) [SMSR T5; Yuyama Td]: 紙本, 288葉, ネーワーリー文字, 6行。奥書 (287b3-288a6) がある。日付はない。

6) No. 412 (ON. 52) [SMSR T6; Yuyama Te]: 貝葉本, 147葉, ネーワーリー文字に似たシッターンタ文字, 5行。讃頌 (*0b1-*0a2) がある。第 XXIII 章後半-XXVI 章初 (Kn 433.5-479.8), 第 XXVI 章末以降 (Kn 479.8-) を欠く。バルフは A. D. 11世紀の書写と推定している。⁽³³⁾

7) No. 413 (ON. 54) [SMSR T7; Yuyama Tf]: 貝葉本, 111葉 (fols. 1-12, 22, 43, 45, 47-9, 51-4, 57-61, 101, 103-4, 111, 117, 119, 121, 122, 136, 142-4, 147-53, 156-61, 163, 164, 166を欠く), クティラー文字, 5/6行。

現存の断簡の内容は次の如くである。

- fols. 13al (Kn 31.8) — 44b6 (Kn 120.3)
 46al (123.8) — 50b6 (136.7)
 55al (151.1) — 141b6 (396.6)
 145al (406.5) — 146b5 (411.5)
 154al (429.5) — 155b5 (435.4)
 162al (458.5) — 162b5 (461.4)
 165al (467.1) — 165b5 (470.1)
 167al (473.5) — 167b5 (476.2)

バルフは A. D. 11世紀の書写と推定している⁽³⁴⁾。

8) No. 414 (ON. 62) [SMSR T8; Yuyama Tg]: 紙本, 118葉 (1b-119b; fol. 107=Kn 426.2-429.6 を欠く), クティラー文字, 8行。奥書 (119b-7-8) がある。この写本はケルン本の K の記号で注記したものに当たる。

9) No. 415 (ON. 409) [SMSR T9; Yuyama Th]: 紙本, 114葉, ネーワーリー文字, 5-11行。奥書 (114a6-1) がある。日付はないが, 近代の書写。

⑨ アジア協会所蔵本

アジア協会 Asiatic Society (カルカッタ) には 3本の梵文法華經写本が所蔵されている。

1) No. G 4079 [SMSR A1; Yuyama Ab]: シャーストリー⁽³⁵⁾目録 No. 12。紙本, 215葉, ネーワーリー文字, 7行。奥付 (215a6-b7) がある。フォーゲルは A. D. 1680年と推定するが, バルフは A. D. 1679/1680年に比定する⁽³⁶⁾。

2) No. G 4199 [SMSR A2; Yuyama Ac]: シャーストリー⁽³⁵⁾目録 No. 13。紙本, 137葉, ネーワーリー文字, 7行。奥書 (137a7-b7) がある。シャーストリーとフォーゲルは A. D. 1713年と推定するが, バルフは A. D. 1711/1712年に比定する⁽³⁷⁾。fol. 107b と fol. 108a のあいだに Kn XIV, 308. 8-XXII, 404.5 に相当する部分を欠いている。fols. 57-99の裏面の右側に新しい数字 [1-42] があり, fols. 100-107には [44-51] が, fols. 108-137には [85-114] が記されている。従って fol. 107以降には元来 [108-143] が存在したものとみなされる。

3) No. B7 [SMSR A3; Yuyama Aa]: 紙本, 131葉, ネーワーリー文字, 10行。奥書 (130b9-131a4) がある。日付はない。

⑩ ネパール国立公文書館所蔵本

ネパールの国立公文書館 National Archives of Nepal (カートマンドゥ) には, ビル図書館 BirLibrary 旧蔵本, カイゼル (Field-Marshal Kaiser) 氏旧蔵本, ヘムラージ (Rajaguru Hemraj Pande) 師旧蔵本が移管されている。以下に関係の目録に基づいて写本の概要を示そう。

A. ビル図書館旧蔵本

ビル図書館旧蔵本目録⁽³⁹⁾によれば、7本の梵文法華経写本が記載されている。

- 1) kramāṅka 3/613 (viṣayāṅka 127) [*Yuyama Ne*] : 紙本, 226葉, ネーワーリー文字, 7行。フォーゲルは A.D. 1840年に比定する。⁽⁴⁰⁾
- 2) kramāṅka 3/781 (viṣayāṅka 123) [*Yuyama Nb*] : 紙本, 179葉, ネーワーリー文字, 7行。フォーゲルは A.D. 1819年に比定する。⁽⁴¹⁾
- 3) kramāṅka 3/737 (viṣayāṅka 129) [*SMSR N4 ; Yuyama Na/D*] : この写本はかつてベンドールによって調査された写本 (No. 23) で, ドゥルバル図書館 Durbar Library (カートマンドゥ) に保管されていたものの如くである。貝葉本, 4葉, リッチャヴィー文字, ビル図書館目録には8行とするも, 中村瑞隆教授の調査によれば, 3/4行。fol. I a1-b4は Kn VII, 177.7-179.1に対比される。fol. II a1-b3は貝葉の形態・墨色ともに他の3葉と異なる。内容は法華経に相応する箇所はなく, 他方世界の菩薩による八相化儀の示現を説いており, 法華経序品の広釈と推定されている。fol. III a1-b4は Kn IV, 102.1-102.15に, fol. IV a1-b4は Kn XXVII, 479.12-481.5に対比される。
- 4) kramāṅka 3/240 (viṣayāṅka 130) [*Yuyama Nc*] : 紙本, 100葉, デーヴァナーガリー文字, 13行。
- 5) kramāṅka 3/678 [?Vogel 3/672] (viṣayāṅka 130) [*SMSR N2 ; Yuyama Nf*] : 貝葉本, 目録には139葉とするも, fols. 2a-138b (fols. 1, 118-120を欠く), プラーチーナネーワーリー文字, 6行。
- 6) kramāṅka 1/1098 (viṣayāṅka 132) : 紙本, 160葉, ネーワーリー文字, 9行。
- 7) kramāṅka 3/259 (viṣayāṅka 133) [*Yuyama Nd*] : 紙本, 69葉, ネーワーリー文字, 9行。

B. カイゼル氏旧蔵本

カイゼル氏旧蔵本の内容は長尾雅人教授の調査に基づく目録⁽⁴⁴⁾によって知ることができる。その中に1本の梵文法華経写本が記載されている。

- 8) No. 215 [*Yuyama Kg*] : 紙本, ネーワーリー文字。

C. ヘムラージ師旧蔵本

ヘムラージ師旧蔵本は国立図書館 National Library of Nepal 目録⁽⁴⁵⁾に記載されており, 3本の梵文法華経写本が含まれている。また, 上記の長尾目録に2本が記載されている。

- 9) kramāṅka 211 (viṣayāṅka 97) [*Yuyama Ha*] : 紙本, 175葉 (長尾目録は174葉), ネーワーリー文字, 7行。奥書がある。フォーゲルによれば A. D. 1698年に比定される。⁽⁴⁶⁾
- 10) kramāṅka 144 (viṣayāṅka 97?→98) [*SMSR N3*] : 貝葉本, 73葉, 目録には12行と記載するも, 実際には6行。破損多し。
- 11) kramāṅka 82 (viṣayāṅka 99) [*Yuyama Hb*] : 紙本, 200葉, ネーワーリー文字, 7行。奥書がある。フォーゲルは A. D. 1852年に比定する。⁽⁴⁷⁾

D. マールブルグ協会図書館所蔵マイクロフィルム

ネパール・ドイツ写本保存事業 Nepal-German Manuscript Preservation Project のもとに、ネパール王国政府 Royal Nepalese Government とドイツ東方学協会 German Oriental Society によって撮影された梵文写本のマイクロフィルムはマールブルグの協会図書館 Society's Library に保存されている。その中からフォーゲルは10本の梵文法華經写本について記載している。⁽⁴⁸⁾ すなわち、上述した写本：

No.3/672	(?678)	[SMSR N2]	Nf	}	ビル図書館旧蔵本
3/259			Nd		
1/1098			—		
3/781			Nb		
3/613			Ne		
5/144		[SMSR N3]	—	}	ヘムラージ師旧蔵本
5/82			Hb		
5/211			—		

の他に、次の2本（実際には3種）を記載している。

12) No. 4/21 [SMSR N1]：貝葉本，178葉とするも，実際には176，5行。奥付（176b5-176a2）がある。

13) No. 4/21* [SMSR N5=N1α]：4/21の末尾に付せられた2葉（177a1-178b1）はKn 484.9-487.5（第XXVII章の一部）に相当し，前の部分が失われた他の写本の2葉とみなされる。〔フォーゲルに言及なし〕

14) No. 4/217 [Yuyama Ng]：紙本，249葉。フォーゲルはA. D. 1842年に比定する。⁽⁴⁹⁾ また奥書の末尾に第2の日付（A. D. 1832）があるが，フォーゲルは書写の日付ではないとみなしている。⁽⁵⁰⁾

⑪ 京都大学文学部図書館所蔵本 [Yuyama Ky]

1910年に榊亮三郎博士がカートマンドゥで入手した梵語仏典の写本は，京都大学梵文学研究室に保管されて，足利惇氏教授によってタイプ版の目録が印刷されていたが，⁽⁵¹⁾ 現在は同大学文学部図書館に移管され，五島清隆・野口圭也両氏によって内容目録が整備された。⁽⁵²⁾ No. 110 (E 295)：140葉，9-12行。

⑫ アジア博物館所蔵本

アジア博物館（ペトロポリ＝レニングラード）アジア局図書館 Library of the Asiatic Department, Asiatic Museum に1本の梵文法華經写本が所蔵され，ミロノフ（N. D. Mironov）の目録⁽⁵³⁾ に記載されている。No. 417 (Dep. As. 1059) [Yuyama L]：紙本，135+3葉，ランジャンナー文字（部分的にはケンブリッジ写本 Add. 1643年に近い11世紀の文字），5/6行。チベット文字で梵語の標題 Saddharmapūṇḍarīka-nāma-mahāyānasūtra viharati sma がある。

⑬ クンデリン寺所蔵本

サーンクリトヤーヤナが1929-30年にチベット調査旅行した際に、ラサのクンデリン(Kun bde gliñg) 寺で梵文法華經写本を発見している。Vol. I, No. 2 [Yuyama S]: 貝葉本, マーガディー一文字, 5行, NE. 200? = 980? A. D.

⑭ サキヤ寺所蔵本

1936年にサーンクリトヤーヤナがチベットのサキヤ寺で発見した2本の梵文法華經写本の中で、現在、民族文化宮図書館(北京)に保管されている写本(第0004号)以外の他の1本は、貝葉、158葉、ランジャンナー文字、5行であったという。⁽⁵⁴⁾ ペテックはA. D. 1056年に比定している。⁽⁵⁶⁾

(2) カシミール(ギルギット)本

1935年にカシミールのギルギットの北約4.8kmにある仏塔C(ナウプル村)から多数の白樺樹皮と紙の仏典が発見された。⁽⁵⁷⁾ 大部分の写本は直立グプタ文字で書かれ、東トウルキスタン出土の写本より少し遅く、A. D. 6-7世紀とグットは推定している。写本は62種の書名からなり、その蒐集本の大部分は、ラグ・ヴィラ(Raghu Vira)等によって、

Śata-Piṭaka, International Academy of Indian Culture, New Delhi
の中に公刊されている。

ローケーシュ・チャンドラ(Lokesh Chandra)⁽⁵⁸⁾によれば、蒐集本中の法華經について、

Serial	No. 44	Saddharmapuṇḍarīkasūtra	18葉
	No. 45	〃	125葉
	No. 47	〃	34葉
	No. 48	〃	41葉
	No. 49	Saddharmapuṇḍarīkadharmaparyāya	2葉
	No. 50	Prajñāpāramitā	10葉*

*法華經2葉が含まれる

と報告されている。しかし、ギルギット出土の写本はその全貌が明らかにされないうちに、多くの葉数が個々に売却されて散佚した。上記の写本はその主要部分である。

① インド連邦公文書館所蔵本

インド連邦公文書館 National Archives of India (ニュー・デリー)に所蔵されている梵文法華經写本は6種に分類されている。この中の Serial Nos. 44, 45, 47, 48, 49 (Box V)は、1974年にラグ・ヴィラとローケーシュ・チャンドラによって写真版として刊行された。⁽⁵⁹⁾

1) Serial No. 44〔SMSR D2; Yuyama Gh〕：白樺樹皮本，14葉（写真 Nos. 2785-2812），10/11行。fols. 65, 91-95, 103の数字がある。fols. 92, 93, 94, 95は二つに切断されているので，国立公文書館では葉数の合計は18とされている。

2) Serial No. 45〔SMSR D1; Yuyama Gi〕：白樺樹皮本，120葉（写真 Nos. 2813-3051）。8行。fols. 1-3, *4, 5-8, 10-17, *18, 24, 29-36, *38, *39, 40-68, *69, 70-75, 109-128, 128', 129-137, *138, *139, 140-144, *145, 146-153, 166-172, *173の数字が保存されている。写真 Nos. 3031-3032 (fol. 115) は Serial No. 47 (写真 No. 3118, fol. 114) に継続する内容を含むので，〔SMSR D2〕に編入した。写真 Nos. 3049-3051は法華經本文中に比定箇所を見出しえないので，奥書として取り扱った。

3) Serial No. 47〔SMSR D2; Yuyama Gj〕：白樺樹皮本，34葉（写真 Nos. 3053-3120），9行。末葉（写真 Nos. 3119-3120）は他のテキストに属したものとみなされる。fol. 114（写真 Nos. 3117-3118）は11行よりなり，他の写本に属したものと推定される。fols. 5, *7, 11, 14-23, 27-35の数字が保存されている。写真 No. 2788（Serial No. 44, fol. *66; 10行）から写真 No. 3097（Serial No. 47; 9行）へは1葉の間隔で内容の連続が認められる。行数の相違があるので，同一写本の断定に疑義が残るが，便宜上 fol. *68を付した。従って本書では，写真 Nos. 3097-3116は fol. *68a-*77bとして整理されている。

4) Serial No. 48〔SMSR D3〕：白樺樹皮本，48葉（写真 Nos. 3121-3216），11行。fols. *21-*30, 31, *32-*33, 34-39, *40, 95, *96, *99, 115-120, 124-126, *127, 128, *134の数字が保存されている。

5) Serial No. 49〔SMSR D2〕：白樺樹皮本，2葉（写真 Nos. 3217-3220），10行。Serial No. 44と同じ行数であるところから同一の写本に属するかもしれない。写真 No. 3217は写真 No. 2802 (fol. *98b) に継続する内容を含むので fol. *99を付した。

6) Serial No. 50〔SMSR D5〕：白樺樹皮本，2葉〔R・ヴィラとL・チャンドラの出版に含まれない〕。(1)*a（5行残存，Kn 237.14-241.2）は Serial No. 44，写真No. 2785(65a7-11)の右側に，*b（6行残存，Kn 240.6-241.2）は写真No. 2786(65b 1-6)の右側に符合する。(2)*a（7行残存，Kn. 375.9-376.10）は Serial No. 44，写真No. 2801(*98a 3-9)の右側に，*b（8行残存，Kn. 376.12-378.3）は写真No. 2802(*98b 1-8)の右側に符合する。

1972-79年に渡辺照宏博士は，上記インド連邦公文書館所蔵本の中で Serial No. 45を Group A〔SMSR D1〕，Serial Nos. 44, 45（写真 Nos. 3021-3032），47を Group B〔SMSR D2〕として，写真版とローマ字版⁽⁶⁰⁾を出版した。さらに1979年に戸田宏文教授は，これに欠けている Serial No. 49（写真 Nos. 3217-3220）を Group Bとして，Serial No. 48を Group Cとして，ローマ字版⁽⁶¹⁾を公刊している。

② 大英博物館所蔵本〔SMSR D3〕

上記ギルギット出土の梵文法華經写本中の8葉（7葉ではない⁽⁶²⁾）はかつてアッカ⁽⁶²⁾ン（J. Hackin）

によって蒐集されてギメ博物館 Musée Guimet (パリ) に保管されていた。その中の2葉については、逸早くレヴィ (S. Lévi) によって写真とローマ字のテキストが公表された⁽⁶³⁾。その後8葉中の7葉は大英博物館に移管された。MS. No. 431, Or. 11878B: ギルギット出土, 7/8世紀。⁽⁶⁴⁾

この中の6葉は本田義英教授・出口常順氏によって撮影して将来され、写真版として刊行された〔以下、本田本と略す〕。またその中の3葉はW・バルフによって写真版とローマ字のテキストが公表されている⁽⁶⁶⁾。次いで小島文保氏は本田本の6葉のローマ字のテキストを公表した⁽⁶⁷⁾。また最後の1葉は兜木正亨教授によって写真が将来されて紹介された。その後、渡辺博士は前記ギルギット出土法華経写本の出版に当たって、7葉の写真とローマ字のテキストを Group C として掲載している⁽⁶⁹⁾。さらに、S. レヴィによって公表された1葉 (片面) のローマ字のテキストは、上記の戸田教授の出版中に含まれている⁽⁷⁰⁾。大英博物館所蔵本と刊本との関係は次の通りである。

Fol. No.	Yuyama	Kn	JA CCXX No.	本田	バルフ	小島	渡辺	戸田
?a	[Ga]	192.4-194.2	4					○
Ia	[Gb]	251.2-252.3		225	○	○	○	
Ib		252.9-253.16		226	○	○	○	
IIa	[Gc]	254.1-255.13		227	○	○	○	
IIb		255.13-257.2		228	○	○	○	
IIIa	[Gd]	272.6-273.12		239	○	○	○	
IIIb		273.12-275.4		230	○	○	○	
IVa	[Ge]	436.3-438.1		231		○	○	
IVb		438.1-439.6		232		○	○	
Va	[Gf]	443.2-444.7		233		○	○	
Vb		444.7-445.7		234		○	○	
VIa		480.8-482.3					○	
VIb		482.4-484.3					○	
VIIa	[Gg]	487.1-5	6a	235			○	
VIIb		Colophone	6b	236			○	

③ M. A. シャー氏所蔵本 [SMSR D3 ; Yuyama Gg]

ラホール (Lahore) の M. A. シャー (Shah) 氏がババット (P. V. Bapat) 氏に資料の比定を依頼した断簡 (約275葉) の中に、梵文法華経写本の1葉が含まれていた。直立グプタ文字, 10行。ババットの論文⁽⁷¹⁾中に、この写真とデーヴァナーガリー転写が付せられており、戸田教授は上記の出版中にこれを含めている⁽⁷²⁾。

Plate III a Kn 417.1-417.9

III b Kn 417.9-418.4

④ サー・プラatap・シング博物館所蔵本〔SMSR D4〕

1976年にヒニューバー（Oskar von Hinüber）はカシミールのサー・プラatap・シング博物館 Sir Pratap Singh Museum（スリナガル）所蔵の梵文写本中に、法華經の写本があることを発見した。これは1938年にシャストリ（M. S. Kaul Shastri）によってギルギットの近くのナウプルで再発掘された際に出土した写本の一部とみられる。この写真版とローマ字のテキストがヒニューバーによって出版された。⁽⁷³⁾

白樺樹皮本，30葉，直立グプタ文字，8行。*45—*55，56，*57，*58，59—64，*65—*74 b。第Ⅲ—Ⅶ章に相当する（Kn 91.12—169.7）。

（3）西域（中央アジア）本

19世紀末から20世紀初にかけて、中央アジア探検隊が派遣されて、多くの梵語仏典の写本が発見された。それらの中かなりの種類の梵文法華經写本が含まれている。これらの写本は、出土の地名および発見者の名前によって種々に呼ばれている。⁽⁷⁴⁾

① ソビエト連邦科学アカデミー東方学研究所所蔵本

中国新疆省のカシュガル（Kashgar）駐在のロシア総領事ペトロフスキー（N. F. Petrovsky）が1903年に入取した写本は、ソビエト連邦科学アカデミー東方学研究所 Institute of Oriental Studies, USSR Academy of Science（レニングラード）に所蔵されている。

1) SI^P/₅〈ペトロフスキー本〉〔SMSR O〕：紙本，394葉（291葉+108断簡；元来は459葉からなる写本であったが、散佚して他の蒐集本中に含まれる），能書体直立グプタ文字（Calligraphic Upright Gupta Script），7行。A. D. 7/8世紀の書写と推定されている。⁽⁷⁵⁾ 卷頭にラーフラバドラの讃頌（3a1—4b5）とジャラプニャ（Jalapuṇa）による祈請文（4b5—6b4），卷末に奥書（*459b2—9）が付せられている。

この写本に対する研究は、早くから真田有美・清田寂雲両教授によって部分的に公表されてきたが、1976年にローケーシュ・チャンドラによって写真版が公刊された。⁽⁷⁶⁾ また戸田教授は、このテキストのローマ字版を刊行してきたが、1981年に中央アジア出土の断簡をも含めた書物を出版した⁽⁷⁸⁾〔以下、戸田本と略す〕。

2) ペトロフスキー蒐集断簡

ペトロフスキー蒐集の梵文写本の中に、上記O本の他に、多数の梵文法華經写本が含まれており、ボンガード・レヴィン（G. M. Bongard-Levin）とトヨンキン（E. V. Tyomkin）は3葉の断簡を公表した。

Fragment No. 1 [P 90]〔SMSR Ff〕：1葉，直立グプタ文字，9行。Kn I，16.5—18.8；戸田本 p. 263。⁽⁷⁹⁾

Fragment No. 2 [P 90a]⁽⁸⁰⁾ [SMSR Ff] : 1葉, 直立グプタ文字, 9行。Kn IV, 105.10-107.9 ;

戸田本 p. 263.

SI $\frac{P}{62A}$ ⁽⁸¹⁾ [SMSR F6] : 紙本, 1葉, 能書体直立グプタ文字, 6行。1890年にペトロフスキーが蒐集し, 比定されない写本として処理されていた。Kn VI, 145.7-146.13 ; O 141b7-142b7 ; 湯山博士はこの写本をペトロフスキー本, ネパール本, チベット語訳と対比してローマ字テキストを出版した。戸田本 p. 318.

1985年に, ヴォロビエオワ・デシャトフスカヤ (M. I. Vorobyova-Desyatovskaya) は7種の写本に属する85葉 (断簡を含む) の写真版とローマ字本を⁽⁸²⁾ 公刊した。ボンガード・レヴィンによれば, すべて貝葉本であると言う。

Spisok I, SI $\frac{P}{12+13}$: 1葉, 能書体直立グプタ文字, 6行。

[Ris. 22-23, SP No. 1] fol. [1]4[6]a-b, Kn VI-VII, 154.13-156.4 [SMSR Fa]

Spisok I, SI $\frac{P}{10}$: 31葉・1断簡, 能書体直立グプタ文字, 6行。[SMSR Fa]

[Ris. 24-25, SP No. 2] fol. 287/62a-b; Kn X-XI, 237.4-239.3

[Ris. 26-27, SP No. 3] fr. 7a-b; Kn XI, 242.11-243.9

[Ris. 28-29, SP No. 4] fol. 295a-b; Kn XI, 244.4-245.10

[Ris. 30-31, SP No. 5] fol. 296a-b; Kn XI, 245.10-246.6

[Ris. 32-33, SP No. 6] fol. 297/ [7]2a-b; Kn XI, 246.6-247.7

[Ris. 34-35, SP No. 7] fol. 298/ [7]3a-b; Kn XI, 247.7-248.3

[Ris. 36-37, SP No. 8] fol. 299/ [7]4a-b; Kn XI, 248.3-13

[Ris. 38-39, SP No. 9] fol. 300/75a-b; Kn XI, 248.13-249.11

[Ris. 40-41, SP No. 10] fol. 301/76a-b; Kn XI, 249.11-250.11

[Ris. 42-43, SP No. 11] fol. 302/ [7]7a-b; Kn XI, 250.11-251.12

[Ris. 44-45, SP No. 12] fol. 303/ [7]8a-b; Kn XI, 251.12-253.8

[Ris. 46-47, SP No. 13] fol. 304/ [79]a-b; Kn XI, 253.8-255.5

[Ris. 48-49, SP No. 14] fol. 306/ [81]a-b; Kn XI, 256.10-257.11

[Ris. 50-51, SP No. 15] fol. 316/91a-b; Kn XII, 268.10-269.10

[Ris. 52-53, SP No. 16] fol. [320]/95a-b; Kn XII-XIII, 274.5-275.10

[Ris. 54-55, SP No. 17] fol. 3[21]/ [9]6(?)a-b; Kn XIII, 275.10-276.10

[Ris. 56-57, SP No. 18] fol. 324a-b; Kn XIII, 279.10-281.12

[Ris. 58-59, SP No. 19] fol. [433]a-b; Kn XXII, 406.4-407.3

[Ris. 60-61, SP No. 20] fol. [434]a-b; Kn XXII, 407.4-408.3

[Ris. 62-63, SP No. 21] fol. [435]a-b; Kn XXII, 408.3-15

[Ris. 64-65, SP No. 22] fol. [436]a-b; Kn XXII, 409.1-410.2

[Ris. 66-67, SP No. 23] fol. [437]a-b; Kn XXII, 410.3-411.2

- [Ris. 68–69, SP No. 24] fol. [438]a–b; Kn XXII, 411.2–412.3
- [Ris. 70–71, SP No. 25] fol. [439]a–b; Kn XXII, 412.3–12
- [Ris. 72–73, SP No. 26] fol. 440/ [5]4(?)a–b; Kn XXII, 413.1–10
- [Ris. 74–75, SP No. 27] fol. 446a–b; Kn XXII, 419.2–420.3
- [Ris. 76–77, SP No. 28] fol. 445a–b; Kn XXIII, 429.1–430.7
- [Ris. 78–79, SP No. 29] fol. 459/76a–b; Kn XXIII, 434.3–435.7
- [Ris. 80–81, SP No. 30] fol. 460/77a–b; Kn XXIII, 435.7–436.7
- [Ris. 82–83, SP No. 31] fol. 46[2]a–b; Kn XXIV, 438.6–440.1
- [Ris. 84–85, SP No. 32] fol. 463a–b; Kn XXIV, 440.1–441.6
- [Ris. 86–87, SP No. 33] fol. 481a–b; Kn XXV, 468.1–469.4
- Spisok II, SI $\frac{P}{II(II)}$: 17葉・4断簡, 能書体直立グプタ文字, 5行。〔SMSR Fb〕
- [Ris. 88–89, SP No. 34] fr. a (?), b (?)
- [Ris. 90–91, SP No. 35] fol. [6]a–b; Kn I, 2.5–3.1
- [Ris. 92–93, SP No. 36] fol. 7a–b; Kn I, 3.1–7
- [Ris. 94–95, SP No. 37] fol. 8a–b; Kn I, 3.7–4.1
- [Ris. 96–97, SP No. 38] fol. 9a–b; Kn I, 4.1–10
- [Ris. 98–99, SP No. 39] fol. 10a–b; Kn I, 4.10–5.2
- [Ris. 100–101, SP No. 40] fol. 11a–b; Kn I, 5.2–9
- [Ris. 102–103, SP No. 41] fr. 4a–b; Kn I, 21.11–19
- [Ris. 104–105, SP No. 42] fr. 2a–b; Kn I, 22.1–7
- [Ris. 106–107, SP No. 43] fol. 57a–b; Kn II, 37.7–38.8
- [Ris. 108–109, SP No. 44] fol. 60a–b; Kn II, 39.11–40.6
- [Ris. 110–111, SP No. 45] fol. 105a–b; Kn III, 70.13–71.6
- [Ris. 112–113, SP No. 46] fr. 3a–b; Kn III, 88.1–89.1
- [Ris. 114–115, SP No. 47] fol. 147a–b; Kn IV, 100.2–9
- [Ris. 116–117, SP No. 48] fol. 149a–b; Kn IV, 100.9–101.13
- [Ris. 118–119, SP No. 49] fol. 150a–b; Kn IV, 101.13–102.5
- [Ris. 120–121, SP No. 50] fol. 151a–b; Kn IV, 102.5–12
- [Ris. 122–123, SP No. 51] fol. 152a–b; Kn IV, 102.12–103.4
- [Ris. 124–125, SP No. 52] fol. 153a–b; Kn IV, 103.5–12
- [Ris. 126–127, SP No. 53] fol. 240a–b; Kn V–VI, 143.3–144.4
- [Ris. 128–129, SP No. 54] fol. 316a–b; Kn VII, 173.12–174.9
- Spisok II, SI $\frac{P}{7}$: 1断簡, 能書体直立グプタ文字, 5行。〔SMSR Fb〕
- [Ris. 130–131, SP No. 55] fr. a–b; Kn VII–VIII, 197.12–199.12

- Spisok III, SI $\frac{P}{8}$: 1葉・2断簡, 能書体直立グプタ文字, 6行。〔SMSR Fc〕
- 〔Ris. 132-133, SP No. 56〕 fol. [4]a-b; Kn I, 1.5-2.11
- 〔Ris. 134-135, SP No. 57〕 fr. 1a-b; Kn XVIII, 357.1-358.10
- 〔Ris. 136-137, SP No. 58〕 fr. 3a-b; Kn XXVI, 477.2-478.9
- Spisok IV, SI $\frac{P}{9}$: 17葉・2断簡, 能書体直立グプタ文字, 5行。〔SMSR Fd〕
- 〔Ris. 138-139, SP No. 59〕 fr. 19a-b; Kn I, 12.9-15
- 〔Ris. 140-141, SP No. 60〕 fol. 183(?)a-b; Kn VII, 165.11-166.7
- 〔Ris. 142-143, SP No. 61〕 fol. 186a-b; Kn VII, 167.11-168.1
- 〔Ris. 144-145, SP No. 62〕 fr. 18a-b; Kn VII, 172.8-173.2
- 〔Ris. 146-147, SP No. 63〕 fol. 23[1]a-b; Kn VIII. 204.12-205.13
- 〔Ris. 148-149, SP No. 64〕 fol. 232a-b; Kn VIII. 205.13-206.9
- 〔Ris. 150-151, SP No. 65〕 fol. 233a-b; Kn VIII. 206.10-207.9
- 〔Ris. 152-153, SP No. 66〕 fol. [234]a-b; Kn VIII. 207.10-208.11
- 〔Ris. 154-155, SP No. 67〕 fol. 248a-b; Kn IX. 221.5-222.4
- 〔Ris. 156-157, SP No. 68〕 fol. 289a-b; Kn XI. 246.2-11
- 〔Ris. 158-159, SP No. 69〕 fol. 311a-b; Kn XI. 264.15-265.9
- 〔Ris. 160-161, SP No. 70〕 fol. [3]23a-b; Kn XIII, 275.10-276.6
- 〔Ris. 162-163, SP No. 71〕 fol. 3(6?)3a-b; Kn XIV, 310.8-311.3
- 〔Ris. 164-165, SP No. 72〕 fol. 385a-b; Kn XVI, 328.2-12
- 〔Ris. 166-167, SP No. 73〕 fol. 386a-b; Kn XVI, 328.12-329.15
- 〔Ris. 168-169, SP No. 74〕 fol. 4[?]3a-b; Kn XXIV, 442.7-443.8
- 〔Ris. 170-171, SP No. 75〕 fol. 4[?]4a-b; Kn XXIV, 443.8-444.11
- 〔Ris. 172-173, SP No. 76〕 fol. 4[?]5a-b; Kn XXIV, 444.11-445.9
- 〔Ris. 174-177, SP No. 77〕 fol. 550a-b; Kn XXVI, 481.9-482.8
- Spisok V, SI $\frac{P}{11}$: 5葉, 直立グプタ文字, 5行。〔SMSR Fe〕
- 〔Ris. 178-179, SP No. 78〕 fol. 248a-b; Kn VII, 183.5-184.1
- 〔Ris. 180-181, SP No. 79〕 fol. 249a-b; Kn VII, 184.1-11
- 〔Ris. 182-183, SP No. 80〕 fol. 250a-b; Kn VII, 184.11-185.7
- 〔Ris. 184-185, SP No. 81〕 fol. 251a-b; Kn VII, 185.7-186.5
- 〔Ris. 186-187, SP No. 82〕 fol. 25[2]a-b; Kn VII, 186.5-187.1
- Spisok VI; SI $\frac{P}{90b1}$: 1断簡, 直立グプタ文字, 9行。〔SMSR Ff〕
- 〔Ris. 188-189, SP No. 83〕 fr. a-b; Kn I, 16.5-18.8=Fragment No. 1
- Spisok VI; SI $\frac{P}{90a}$: 1葉, 直立グプタ文字, 9行。〔SMSR Ff〕
- 〔Ris. 190-191, SP No. 84〕 fol. 40a-b; Kn IV, 105.10-107.9=Fragment No. 2

Spisok VII; SI¹/₁: 1葉, 直立グプタ文字, 10行。〔SMSR Fg〕

(Ris. 192-193, SP No. 85) fol. 166a-b; Kn XXI-XXII, 402.14-405.1

② 英国インド省図書館所蔵本

A. スタイン蒐集本

1) ドモコ周辺出土本

スタイン (Aurel Stein) の第2回の中央アジア探検 (1906-8年) において、バドルッディーン・ハーン (Badruddīn Khān) によって、コータン特にドモコ (Domoko) 周辺の遺跡で蒐集され写本の中に7葉の梵文法華經の断簡が含まれている。インド省図書館に保管されているものと推定される。ページテルと戸田教授のローマ字テキストが公表されている (*は写真・テキスト不明)。

*Balaw. 0153: 紙本, 1断簡。ページテルは Kn XIII, 281 (verse19)-282. 13 に比定する。

Domoko. 0120 (Pl. CXXII, 片面のみ): 紙本, 1断簡, 直立グプタ文字, 6行。Kn III, 79.10-80.5; O 86a7-86b6; 戸田本 p. 271。〔SMSR F3〕

Domoko. 0124 (Pl. CXXXI, 片面のみ): 紙本, 直立グプタ文字, 6行。Kn I, 12.15-14.2; O 19b2-20a4; 戸田本 p. 269。〔SMSR F3〕

Īle-dong. 09 (Pl. CXXI, 片面のみ): 1断簡, 直立グプタ文字, 6行。Kn XXVI, 478.9-480.5; O 451b2-453a1. テキスト(両面): Pargiter pp. 1020-1; 戸田本 pp. 273-4。〔SMSR F3〕

*Khad. 016: 紙本, 1断簡。ページテルは Kn XVIII, 355.3-356.10 に比定する。

Khad. 019 (Pl. CXXII, 片面のみ): 紙本, 直立グプタ文字, 1断簡, 6行。Kn III, 76.14-77.10; O 82b3-83b1. ローマ字テキスト(両面): Pargiter p. 1021; 戸田本 p. 271。〔SMSR F3〕

*Khad. 027: 紙本, 1葉, 直立グプタ文字。ページテルは Kn II, pp. 57-9, verses 134-43 に比定する。

2) カーダリク出土本

スタインが第2回の中央アジア探検 (1906-8年) において、コータンの東方115kmのカーダリク (Khādalik) で発見した写本は、インド省図書館 (ロンドン) に保管されており、その中に梵文法華經の写本や断簡が多数含まれている。比定される写本 (断簡を含めて) は69葉を確認しうる。(*はヘルンレによって法華經の一部と推定された断簡。写真・テキストは不明)。紙本, 直立グプタ文字。関係の写真は「インド省図書館所蔵スタイン蒐集写本のマイクロフィルム」(以下 SC fol. と略す) および本田本に収載されており、ローマ字テキストは戸田教授によって出版されている。

Kha. 0011 (SC fol. 40=本田本 57-58): 1葉, 10行。ローマ字テキスト: 真田氏と戸田本 p. 268。〔SMSR F2〕

- Kha. 0013. b : (1) [本田本 1-2] 1葉, 5行。Kn I, 1.8-2.8; O 7a1-7b7; 戸田本 p. 278. [SMSR F3] (2) [本田本 245-246] : 1葉, 8行。Kn XI, 261.3-262.5; 戸田本 p. 279. [SMSR F3]
- Kha. 0014. b(3) [本田本 9-10] : 1葉, 7行残存。Kn II, 29.9-31.13. ローマ字テキスト : ⁽⁸⁷⁾ 本田博士と戸田本 p. 273. [SMSR F3]
- Kha. i. 24, 33, 35, 36 [本田本 3-6] : 2葉 (4断片), 11行。Kn I, 12.15-21.1. ローマ字テキスト : ⁽⁸⁸⁾ グット本 (ミロノフ) と戸田本 pp. 265-268. [SMSR F2]
- Kha. i. 28 [SC fol. 44] : 2葉 (7断片)。(1) 4行残存。Kn XV, 320.1-320.7; 戸田本 pp. 286-7. [SMSR F4] (2) 5行残存。Kn XV, 320.10-321.9; 戸田本 p. 287. [SMSR F4]
- Kha. i. 58. b [SC fol. 47] : 1葉 (6断片中の1断片), 5行残存。Kn XXV, 441.6-441.14; 戸田本 p. 294. [SMSR F4]
- *Kha. i. 66(1) : 1葉, 4行。対告者 Mañjuśrī, 比定箇所不明。
- *Kha. i. 74. b(2) : 1葉, 小文字で9行, 比定箇所不明。
- Kha. i. 92. b [SC fol. 51=本田本 237-238] : 1葉, 5行。Kn I, 22.2-22.14; O 29b6-30b2; 本田本 p. 281. [SMSR F4]
- Kha. i. 102 [SC fol. 53=本田本 13-14] : 1葉, 5行。Kn II, 52.12-54.1; 戸田本 pp. 273-4. [SMSR F3]
- Kha. i. 134. b(1) [SC fol. 57=本田本 15-16] : 1葉, 7行。Kn II, 55.14-57.4; O 61b1-62b2; 戸田本 p. 270. [SMSR F3]
- *Kha. i. 134. b(2) : 1葉, 7行残存 (元来は10/11行), 破損多し。比定箇所不明。
- *Kha. i. 171. b : 4断片。その中3断片は多分法華経。比定箇所不明。
- Kha. i. 174.c [SC fol. 59=本田本 17-18] : 1葉, 8行。Kn II, 56.12-58.14; 戸田本 p. 274. [SMSR F3]
- Kha. i. 177 : 2葉, 8行。(1) [SC fol. 60=本田本 219-220] Kn XXIV, 444.12-446.10; 戸田本 pp. 274-275. [SMSR F3] (2) [SC fol. 60=本田本 221-222] Kn XXIV-XXV, 456.1-458.5; 戸田本 p. 275. [SMSR F3]
- Kha. i. 185. c, 186 : 2葉, 5行残存 (6行の痕跡あり)。(1) [SC fol. 61=本田本 19-20] Kn X, 224.3-225.8; 戸田本 p. 276. [SMSR F3] (2) [SC fol. 61=本田本 21-22] Kn X, 225.11-226.10; 戸田本 p. 276. [SMSR F3]
- *Kha. i. 213 : 11断片を含む。
- Kha. i. 214. [SC fol. 65=本田本 11-12] : 1葉, 能書体直立グプタ文字, 5行。fol. 39の数字がある。Kn, II, 30.3-31.5, ローマ字テキスト : ⁽⁸⁷⁾ 本田博士と戸田本 pp. 269-70. [SMSR F3]
- Kha. i. 215. a [SC fol. 66=本田本 181-182] : 1葉, 9行。Kn XVIII, 361.13-364.12; 戸田本 p. 275. [SMSR F3]

- Kha. 215. b, 216, 217 [SC fol. 66] : 1断片, 3行残存。Kn I, 7.3-7.11; 戸田本 p. 280. [SMSR F3]
- Kha. i. 219 [SC fol. 66=本田本 271-272] : 1葉, 4行残存, Kn XXI, 395.2-395.8; O 380b4-381a4, ローマ字テキスト: 真田氏⁽⁹⁰⁾と戸田本 p. 291. [SMSR F4]
- Kha. i. 222. b [SC fol. 67] : 1断片, 4行残存。Kn XXVI, 477.2-477.9; O 450a4-450b4; 戸田本 p. 295. [SMSR F4]
- Kha. i. 223. b [SC fol. 67] ; 1断片, 2行残存。Kn XIV, 299.7-299.13; O 287a1-287a4 戸田本 p. 286. [SMSR F4]
- *Kha. i. 303. b : 1葉, 8行。比定箇所不明。
- Kha. i. 305. b(2) [SC fol. 67=本田本 275-276 : 1葉, 5行残存。Kn XXI, 403.6-403.9; XXV, 457.2-457.7(陀羅尼品から妙莊嚴王本事品へつづく)。ローマ字テキスト: 真田教授⁽⁹¹⁾と戸田本 p. 295. [SMSR F4]
- Kha. i. 311. a [SC fol. 68=本田本 187-188] : 1葉(3断片), 8行。Kn XIX-XX, 383.8-386.3; O 370a6-371b3; 戸田本 p. 277. [SMSR F3]
- Kha. i. 317. b : 2葉, 5行残存。(1) [SC fol. 69=本田本 265-266] Kn XIX, 380.3-380.12; O 366a5-367a2; 戸田本 p. 290. [SMSR F4] (2) [SC fol. 69=本田本 267-268] Kn XIX, 381.1-381.8; O 367a3-367b6; 戸田本 p. 290. [SMSR F4]
- Kha. ii. 10 [SC fol. 70] : 1断片, 4行残存。Kn XXVII, 485.1-485.7; O 456b6-457a6; 戸田本 p. 295. [SMSR F4]
- Kha. vi. 12, 13 [SC fol. 71] : 1断片, 2/3行残存。Kn VIII-IX, 214.5-215; O 230a6 203b2; 戸田本 p. 285 [SMSR F4]
- Kha. ix. 1,3 : 3葉, 4/3行残存。(1) [SC fol. 84=本田本 254-253] Kn XVIII, 360.2-360.6; O 346a3 : 346b3; 戸田本 p. 288. [SMSR F4] (2) [SC fol. 84=本田本 255-256] Kn XVIII, 360.13-361.3; O 347a5-347b3; 戸田本 p. 289. [SMSR F4] (3) [SC fol. 84] Kn XXIII, 430.7-430.12; O 415a5-415b3; 戸田本 p. 293. [SMSR F4]
- Kha. ix. 15 [SC fol. 72=本田本 217-218] : 1葉, 5行。Kn XXII, 427.4-427.14; O 411b4-412b2; 戸田本 pp. 292-3. [SMSR F4]
- Kha. ix. 16. a, b : 4葉 (二つの大きな部分と五つの小断片), 能書体直立グプタ文字。(1) [SC fol. 74=本田本 59-60] : 8行。Kn XV, 320.11-321.10; O 309b6-310b6; 戸田本 p. 272. [SMSR F3] (2) [SC fol. 73=本田本 61-62] : 8行。Kn XV, 321.10-322.7; O 310b6-311b7; 戸田本 p. 272. [SMSR F3] (3) [SC fol. 73=本田本 247-248] : 3行残存。Kn XV, 319.3-319.7; O 308a1-308a6; 戸田本 p. 286. [SMSR F4] (4) [SC fol. 75 : 2行。Kn I, 22.2-22.5; O 29b6-30a1; 戸田本 p. 281. [SMSR F4]
- *Kha. ix. 17 : 13断片。比定箇所不明。
- Kha. ix. 18 [SC fol. 75=本田本 177-178 : 1葉 (2断片), 8行残存。Kn XVII, 347.1-

- 347.11 ; O 333a6-334a7 ; 戸田本 p. 277.〔SMSRF3〕
- Kha. ix. 21〔SC fol. 75〕: 1葉〔2断片〕, 5行残存。右側に Kha. ix. 42(5)〔SC fol. 80=本田本 261-262〕が符合する。Kn XIX, 379.3-379.13 ; O 365a1-365b7 ; 戸田本 p. 296.〔SMSR F4〕
- Kha. ix. 22〔SC fol. 75〕: 1葉, 3/4行残存。Kn VI, 147.7-148.8 ; O 143a6-144a5 ; 戸田本 p. 298.〔SMSR F4〕
- Kha. ix. 23〔SC fol. 212=本田本 7-8〕: 1葉(截断されている), 8行。Kn I, 21.18-22.9 ; O 29a7-30a6 ; 戸田本 p. 269.〔SMSR F3〕
- Kha. ix. 24 : 2葉。(1)〔SC fol. 76=本田本 249-250 : 8行。Kn XVI, 330.5-331.8 ; 戸田本 p. 287.〔SMSR F6〕 (2)〔SC fol. 76=本田本 243-244 : 4行。Kn VIII, 203.4-204.10 ; O 194a7-195a6 ; 戸田本 p. 285.〔SMSR F4〕
- Kha. ix. 26〔SC fol. 76〕: 1断片, 5/6行残存。Kn V, 128.14-129.10 ; O 128b6-129a7 ; 戸田本 p. 284.〔SMSR F4〕
- Kha. ix. 28〔SC fol. 76=本田本 241-242 : 1葉, 4行。Kn VI, 147.13-148.6 ; O 143b2-144a2 ; 戸田本 p. 284.〔SMSR F4〕
- Kha. ix. 29〔SC fol. 76〕: 1断片, 4行残存。Kn III, 83.9-84.8 ; O 90b3-91a6 ; 本田本 p. 283.〔SMSR F4〕
- Kha. ix. 32〔SC fol. 77〕: (1)1断片, 3行残存。Kn I, 6.1-6.2 ; O 12b4-12b7 ; 戸田本 p. 280.〔SMSR F4〕 (2)1断片, 5行残存。左側に Kha. ix. 36(3)〔SC fol. 78=本田本 251-252〕が符合する。(後述)
- Kha. ix. 36 : (1)〔SC fol. 78=本田本 239-240 : 1葉(2断片), 7行。Kn I, 24.15-25.15 ; O 32a7-33a4 ; 戸田本 pp. 281-2.〔SMSR F4〕 (2)〔SC fol. 78〕: 1断片, 5行。Kn XVIII, 367.12-368.1 ; O 354a3-354b5 ; 戸田本 p. 289.〔SMSR F4〕 (3)〔SC fol. 78=本田本 251-252〕: 1断片, 4行。右側に Kha. ix. 32(2)〔SC fol. 77〕が符合する。Kn XVII, 347.12-348.9 ; O 334b2-335a7 ; 戸田本 p. 288.〔SMSR F4〕
- Kha. ix. 38〔SC fol. 78〕: 1断片, 3行残存。右側に〔SC fol. 77(6行)〕が符合する。Kn III, 78.14-79.6 ; O 85a6-85b7 ; 戸田本 p. 283.〔SMSR F4〕
- Kha. ix. 42 : 10葉。(1)〔SC fol. 82=本田本 179-180 : 7行。Kn XVII, 348.6-349.8 ; O 335b1-336b7 ; 戸田本 pp. 276-7.〔SMSR F3〕 (2)〔SC fol. 79=本田本 257-258〕: 4行残存。Kn XVII, 367.1-367.12 ; O 353a1-354a1 ; 戸田本 p. 289.〔SMSR F4〕 (3)〔SC fol. 82=本田本 185-186〕: 7行。左側に〔SC fol. 83〕が符合する。Kn XIX, 377.6-378.6 ; O 363a1-363b7 ; 戸田本 p. 289.〔SMSR F4〕 (4)〔SC fol. 81〕=本田本 259-260 : 7行。左側に〔SC fol. 83〕が符合する。Kn XIX, 378.6-379.3 ; O 364a1-365a1 ; 戸田本 p. 296.〔SMSR F4〕 (5)〔SC fol. 80=本田本 261-262〕: 5行残存。左側に Kha. ix. 21〔SC fol. 75〕が符合する。(前述) (6)〔SC fol. 80=本田本 263-264〕: 5行残存。右側

に〔fol. 84〕が符合する。Kn XIX, 380.1-380.10 ; O 365b7-366b7 ; 戸田本 pp. 296-7.〔SMSR F4〕 (7)〔SC fol. 81=本田本 269-270〕(5行残存) + 〔SC fol. 84〕 + (8)〔SC fol. 81〕(6行) : Kn XIX, 380.11-381.10 ; O 367a1-367b7 ; 戸田本 p. 297.〔SMSR F4〕 (9)〔SC fol. 80=本田本 213-214〕(7行) + 〔SC fol. 83〕(3行残存) : Kn XXI, 397.9-399.4 ; O 383a1-383b7 ; 戸田本 pp. 291-2.〔SMSR F4〕 (10)〔SC fol. 79=本田本 273-274〕 : 6行。Kn XXIII, 435.9-436.6 ; O 419b3-420b1 ; 戸田本 p. 293.〔SMSR F4〕

※以下 Kha. No. 不明

〔SC fols. 79+78+77〕 : 1葉 (3断片), 6行。Kn III, 78.5-78.13 ; O 84b3-85a5 ; 戸田本 pp. 282-3.〔SMSR F4〕

〔SC fol. 77〕 : 1葉 (2断片), 6行。左側に Kha. ix. 38〔SC fol. 78〕が符合する。(前述)

〔SC fols. 83+77〕 : 1葉 (2断片) 6行残存。Kn XXIII, 425.8-426.8 ; 戸田本 p. 292.〔SMSR F4〕

〔fol. 79〕 : 1葉, 6行。Kn XVII, 347-347.10 ; O 333b5-334a7 ; 戸田本 p. 288.〔SMSR F4〕

〔fol. 77+83〕 : 1葉 (2断片), 7行。Kn XXV, 459.9-461.1 ; O434b7-435b7 ; 戸田本 pp. 294-5.〔SMSR F4〕

〔SC fol. 83〕 : (1) 1断片, 4行残存。Kn I, 12.12-14.2 ; O 19b3-20a4 ; 戸田本 p. 268.〔SMSR F4〕 (2) 1葉 (2断片), 4/3行残存 (元来は6行)。Kn I, 12.15-14.2 ; O 19b3-20a4 ; 戸田本 pp. 280-1.〔SMSR F4〕 (3) 1断片, 2行残存。右側に Kha. ix. 42 (3)〔SC fol. 82=本田本 185-186〕が符合する。(前述) (4) 1断片, 3行残存。右側に Kha. ix. 42 (4)〔SC fol. 81=本田本 259-260〕が符合する。(前述)

〔SC fol. 84〕 : (1) 1断片, 3行残存。左側に Kha. ix. 42 (6)〔SC fol. 80=本田本 263-264〕が符合する。(前述) (2) 1断片, 4行残存。左側に Kha. ix. 42 (7)〔SC fol. 81=本田本 269-270〕, 右側に Kha. ix. 42 (8)〔SC fol. 81〕が符合する。(前述)

3) ファルハード・ベグ出土本〔SMSR F〕

スタインが第2回の中央アジア探検において、1906年にカーダリクの西北13kmのファルハード・ベグ・ヤイラキ (Farhād-Bēg-Yailaki) で発見した写本はインド省図書館に保管されている。その中に比定される梵文法華經写本は35葉を確認しうる。関係の写真は「インド省図書館所蔵スタイン蒐集写本のマイクロフィルム」および本田本に記載されており、ローマ字テキストはプーサン (L. de la Vallée-Poussin) によって第 XI-XII 章が公表されていたが、戸田教授によって写本のすべてが公表されている。⁽⁹⁴⁾

F. xii. 7〔SC fols. 23-39=本田本 65-132〕 : 紙本, 35葉, 直立グプタ文字, 8行。およそ6世紀の写書。写本には fols. 5-*39の数字がある。

XI : 5a1-10a6 ; Kn XI, 247.6-256.6 ; O 237b3-246a4 ; 戸田本 pp. 229-33.〔提婆達多品相当部分 Kn 256.7-266.4 ; O 246a5-255b7 を欠く〕

XII : 10a6-14b5 ; Kn XII, 267.1-274.11 ; O 256a1-262b7 ; 戸田本 pp. 234-7.

XIII : 14b5-26b7 ; Kn XIII, 275.1-296.3 ; O 263a1-283a1 ; 戸田本 pp. 238-7.

XIV : 26b7-37a6 ; Kn XIV, 297.1-314.6 ; O 283a2-302a7 ; 戸田本 pp. 248-56.

XV : 37a6-39b8 ; Kn XV, 315.1-318.9 ; O 302b2-307a3 ; 戸田本 pp. 257-258.

写本の内容は見宝塔品より勸持品に連続し、鳩摩羅什原訳の『妙法蓮華経』と同様の構成である。

*F. xii. 9 : 2葉 (3断片), 比定箇所不明。

B. ヘルンレ蒐集本

カシュガル駐在の英国総領事マカートニー (George Macartney) によって入手された写本に梵文法華経が含まれている。関係の写真は「インド省図書館所蔵ヘルンレ蒐集写本のマイクロフィルム」(以下、HC fol.と略す) および本田本に記載され、ヘルンレ (R. Hoernle) と戸田教授のローマ字テキストが公開されている。

No. 142. SB. 12 [HC fol.94=本田本 215-216] : 1葉, 6行。Kn XXII, 408.14-409.10 ; *Hoernle* (ed. by H. Lüders) pp.163-4 ; 戸田本 pp. 319-20. [SMSR F6]

No. 142. SB. 53[HC fol. 95=本田本 63-64] : 1葉, 10行。Kn XV-XVI, 350.5-331.8 ; *Hoernle* (ed. by F.W. Thomas) pp. 133-6 ; 戸田本 p. 319. [SMSR F6]

No. 148. SA. 22-25 [SMSR O] : 4葉, 能書体直立グプタ文字, 7行。カシュガル出土ペトロフスキー本 (O) の一部。(1) [fols. 139-140=本田本 41-44] fols. 253-254 : Kn XII, 261.14-265.3 ; *Hoernle* (ed. by Lüders), pp. 144-9 ; 戸田本 pp. 129-30. (2) [fols. 141-142=本田本 45-48] fols. 259-260 : Kn XIII, 269.7-271.3 ; *Hoernle* (ed. by Lüders) pp. 149-52 ; 戸田本 pp. 132-3.

[Unnumbered fragments]

[HC fol. 156] : (1) 1断簡, 7行。Kn XX, 387.8-388.7 ; O 373a6-374b2 ; 戸田本 p. 291. [SMSR F4] (2) 1断簡, 6行。Kn XXIII, 427.5-427.15 ; O 411b5?-412b4 ; 戸田本 p. 292. [SMSR F4]

[HC fol. 157] : (1) 1断簡, 7行残存。Kn VII, 181.14-182.13 ; O 175b3-176b2 ; 戸田本 pp. 284-5. [SMSR F4] (2) 1断簡, 8行。Kn XI, 242.8-243.7 ; O 230b7-232a2 ; 戸田本 pp. 285-6. [SMSR F4] (3) 1断簡, 4行残存。Kn XXIII, 429.6-430.13 ; O 414b3-415b4 ; 戸田本 p. 294. [SMSR F4]

[HC fol. 161] : (1) 1断簡, 5行。kn II, 29.2-29.9 ; O 36a4-37a1 ; 戸田本 p. 282. [SMSR F4] (2) 1断簡, 5行。Kn II, 43.6-43.14 ; O 51b2-52a2 ; 戸田本 p. 282. [SMSR F4] (3) 1断簡, 5行。Kn VII, 188.7-189.3 ; O 182b3-183a6 ; 戸田本 p. 285. [SMSR F4] (4) 1断簡, 5行。Kn I, 27.2-28.1 ; O 34a6-35a4 ; 戸田本 p. 297. [SMSR F4]

C. 出土地不明断簡 [SMSR F5]

湯山博士によって、インド省図書館所蔵断簡の写真が霊友会図書館 (現在の国際仏教学研究所, 東京) に将来され、立正大学法華経文化研究所に寄贈された。戸田教授はそのローマ字テ

キストを公刊している。⁽⁹⁷⁾52断簡。元来は6行であったと推定される。

[fol. 171] : (1) 5行残存。Kn I, 6.7-6.9 ; O 13b2-14a1. 裏面は判読できない。戸田本 p. 299. (2) 5行残存。Kn I, 24.2-24.9 ; O 31b4-32a2. 裏面は判読できない。戸田本 p. 299. (3) 6行。Kn V, 121.1-121.12 ; O 121a6-122a6 ; 戸田本 p. 303. (4) 6行。Kn VII, 174.11-175.13 ; O 168a1-168b7 ; 戸田本 p. 306. (5) 6行。Kn VII, 189.2-190.2 ; O 183a5-184a4 ; 戸田本 p. 307. (6) 6行。Kn VII, 190.2-191.4 ; O 184a4-185a4 ; 戸田本 p. 307. (7) 6行。Kn VII, 191.6-193.2 ; O 185a6-186a5 ; 戸田本 pp. 307-8. (8) 6行。Kn VII, 193.2-194.9 ; O 186a6-187a3 ; 戸田本 p. 308. (9) 6行。Kn VII, 194.10-196.8 ; O 187a4-188a3 ; 戸田本 p. 308. (10) 6行。Kn XXIV, 445.4-446.7 ; O 427a2-428a3 ; 戸田本 p. 316. (11) 6/5行残存。Kn XXV, 466.11-468.2 ; O 440b7-442a2 ; 戸田本 p. 317.

[fol. 172] : (1) 5行残存。Kn II, 40.16-41.4 ; O 47b5-48a3. 裏面は判読できない。戸田本 p. 300. (2) 6行。Kn III, 82.9-83.2 ; O 89b5-90a5. 裏面は判読できない。戸田本 p. 301. (3) 6行。Kn III, 97.6-98.10 ; O 100a6-101a5 ; 戸田本 pp. 301-2. (4) 6行。Kn IV, 103.1-103.12 ; O 105a7-106a7 ; 戸田本 p. 302. (5) 6行。Kn IV, 118.5-118.13 ; O 119b3-120a3. 裏面は判読できない。戸田本 pp. 302-303. (6) 6行。Kn VI, 148.1-148.12 ; O 143b3-144b3 ; 戸田本 p. 304. (7) 3/4行残存。Kn XIII, 286.13-288.4 ; O 273a4-274b1 ; 戸田本 p. 131. (8) 2行残存。Kn XIII, 290.3-291.1 ; O 277b2-278b5 ; 戸田本 pp. 311-312. (9) 3行残存。Kn XIV, 299.13-300.7 ; O 287a4-288b2 ; 戸田本 p. 312. (10) 4/3行残存。Kn XIV, 308.5-309.8 ; O 295b2-296b6 ; 戸田本 p. 313. (11) 4/3行残存。Kn XXIII, 435.4-436.3 ; O 419a5-420a5 ; 戸田本 p. 316.

[fol. 173] : (1) 6行。Kn I-II, 28.11-29.4 ; O 35b6-36a7. 裏面は判読できない。戸田本 p. 300. (2) 6行。Kn III, 87.4-88.8 ; O 93a5-94a3 ; 戸田本 p. 301. (3) 6行。Kn IV, 100.6-101.5 ; O 102a6-103a5 ; 戸田本 p. 302. (4) 5/4行残存。Kn VI, 145.1-146.5 ; O 141a6-142a7 ; 戸田本 pp. 303-4. (5) 6行。Kn VII, 171.6-171.10 ; O 104b2-164b7. 裏面は判読できない。戸田本 p. 305. (6) 6行。Kn VII, 189.2-189.13 ; O 183a5-184a2 ; 戸田本 p. 306. (7) 6/5行残存。Kn VII, 189.2-190.2 ; O 183a4-184a3 ; 戸田本 pp. 306-7. (8) 4行残存。Kn XI, 242.7-242.10 ; O 230b5-231a3. 裏面は判読できない。戸田本 p. 309. (9) 6行。Kn XVII, 362.13-364.7 ; O 349b1-350b6 ; 戸田本 pp. 314-5. (10) 5/6行残存。Kn XX, 389.4-390.4 ; O 375b1-376b4 ; 戸田本 p. 315.

[fol. 174] : (1) 5/6行残存。Kn II, 42.3-42.14 ; O 49b2-50b3. 戸田本 p. 300. (2) 5行残存。Kn III, 63.12-64.14 ; O 68b2-69b3 ; 戸田本 pp. 300-1. (3) 6行。Kn XV, 318.15-320.1 ; O 307b3-309a1 ; 戸田本 pp. 313-4. (4) 2/3行残存。Kn XVIII, 347.13-348.7 ; O 334b3-335a5 ; 戸田本 p. 314.

(fol. 175) : (1) 3行残存。Kn VI, 144.10-146.4 ; O 141a6-142a7 ; 戸田本 p. 303. (2) 3行残存。Kn VI, 150.8-151.4 ; O 146a3-146b2 ; 戸田本 p. 304. (3) 6/5行残存。Kn VII, 165.10-166.8 ; O 159a5-160a1 ; 戸田本 p. 305. (4) 3行残存。Kn X, 237.6-237.11 ; O 225b1-226a2 ; 戸田本 p. 309. (5) 4/5行残存。Kn XI, 245.1-245.8 ; O 234a2-234b7 ; 戸田本 p. 310. (6) 5/4行残存。Kn XI, 245.10-246.1 ; O 235a4-236a2 ; 戸田本 p. 310. (7) 4行残存。Kn XIII, 286.12-288.4 ; O 273a3-274a7 ; 戸田本 p. 311. (8) 5/6行残存。Kn XIII, 292.10-294.4 ; O 280a7-281b2 ; 戸田本 p. 312. (9) 4行残存。Kn XIV, 308.4-309.8 ; O 295b1-296.5 ; 戸田本 p. 313. (10) 6行。Kn XXI-XXII, 403.1-404.3 ; O 386b1-387b3 ; 戸田本 p. 315. (11) 3行残存。Kn XXV, 463.6-464.4 ; O 437b1-438a3 ; 戸田本 pp. 316-7.

(fol. 176) : (1) 6行。Kn I, 6.9-7.3 ; O 14a2-14b3. 裏面は判読できない。戸田本 p. 299. (2) 6行。Kn I, 24.11-25.2 ? ; O 32a4-32b4. 裏面は判読できない。戸田本 p. 299. (3) 5/4行残存。Kn VII, 166.14-167.11 ; O 160a6-161a2 ; 戸田本 p. 305. (4) 6行。Kn VIII, 211.13-213.5 ; O 201b5-202b6 ; 戸田本 p. 309. (5) 5行残存。Kn XI, 248.4-249.3 ; O 239a1-240a4 ; 戸田本 pp. 310-1. (6) 5行残存。Kn XVII, 350.16-352.7 ; O 338b5-339b5 ; 戸田本 p. 314.

③ 大英博物館所蔵〔カードリク出土〕本〔SMSR O〕

大英博物館にはスタイン蒐集のカードリク出土写本の整理された部分が保管されているが、その中に梵文法華経が含まれている。これはカシュガル出土ペトロフスキー本〔O〕の一部とみられる。

MS Or. 9613 : 紙本, 40葉, 能書体直立グプタ文字, 7行。 (1)(fols.256-258=本田本 49-54) : 3葉。Kn XII, 267.1-269.7 ; 戸田本 pp. 131-2. (2)(fol. 282=本田本 55-56) : 1葉。Kn XIII, 294.10-295.4 ; 戸田本 p. 143. (3)(fols. 327-348=本田本 133-176) : 22葉。Kn XVI-XVIII, 339.7-362.3 ; 戸田本 pp. 161-72. (4)(fol. 360=本田本 183-184) : 1葉。Kn XVIII-XIX, 373.12-375.4 ; 戸田本 pp. 177-8. (5)(fols, *367-*373=本田本 189-202) : 7葉。Kn XIX-XX, 380.11-388.2 ; 戸田本 pp. 180-4. (6)(fols.*380-*384=本田本 203-212) : 5葉。Kn XX-XXI, 393.10-400.8 ; 戸田本 pp. 186-9. (7)(fol.*447=本田本223-224) : 1葉。Kn XXVI, 473.12-474.9 ; 戸田本 pp. 218-9.

④ マールブルグのドイツ国立図書館所蔵 (トリンクラ) 本〔SMSR O〕

1927-28年にトリンクラ (Emil Trinkler) によってコートンで発見され、ドイツ科学アカデミー Akademie der Wissenschaften (ベルリン) に所蔵されていた梵文写本断簡は、その後マインツ (Mainz) の科学・文学アカデミー Akademie der Wissenschaften und der Literatur

を経て、現在はマールブルグ（Marburg）のドイツ国立図書館 Staatsbibliothek der Stiftung Preussischer Kulturbesitz に保管されている。

Mainz 685-689, 705, 706, 715, 717：紙本，9葉，能書体直立グプタ文字，7行。写真は本田本に収録されたが、ベッヘルト（H. Bechert）は fols. 244, 251の写真とローマ字テキスト，および相応するチベット語訳を出版した⁽⁹⁸⁾。また戸田教授は前掲の出版にローマ字テキストを掲載している。カシュガル出土ペトロフスキー本〔O〕の一部を形成する。この写本は第 XI 章（見宝塔品）より第 XII 章（提婆達多品）へ至る部分で、現行の『妙法蓮華経』と同様に、提婆達多品を独立させている。

Mainz No.	fol. No.	Kn		本田本	戸田本
688	244a-b	XI,	252.14-254.8	23-24	p. 125
685	245a-b		254.8-256.2	25-26	〃
706	246a-b	〔X II〕	256.2-257.2	27-28	p. 126
717	247a-b		257.2-258.4	29-30	〃
686	248a-b		258.5-259.1	31-32	p. 127
687	249a-b		259.6-260.4	33-34	〃
689	250a-b		260.4-261.1	35-36	pp. 127-8
705	251a-b		261.1-263.4	37-38	p. 128
715	252a-b		263.4-261.8	39-40	pp. 128-9

⑤ エール大学図書館所蔵（ハンティングトン）本〔SMSR O〕

1905年にハンティングトン（Ellesworth Huntington）によってカーダリクで発見された梵文法華經写本の断簡が、エール大学図書館 Yale University Library（ニュー・ハーヴェン）に保管されている。彼は1907年に他の写本とともに4断簡の片面の写真を公刊したが、その中のFの符号を付した断簡をロイマン（Ernst Leumann）は法華經に比定した⁽¹⁰⁰⁾。1968年にエメリック（R. E. Emmerick）はこれらの4断簡の所在を確認した。湯山博士と戸田教授は、この断簡を大英博物館所蔵のカシュガル出土梵文法華經（No. Or. 9613, fol. 282）の右側に符合することを確証し、両断簡およびファルハード・ペーグ断簡（fol. 26），ギルギット写本 Group C, fol. 120 と対校してローマ字テキストを公表した⁽¹⁰¹⁾。

⑥ マンネルハイム本

1906-8年にマンネルハイム（C. G. Mannerheim）がカシュガル，コートン，トゥルファン等の中央アジア探検で将来した写本中に、梵文法華經写本が含まれていた⁽¹⁰²⁾。出土地は不明。

No.5：紙本，1葉，6行。Kn II，40.16-41.14。写真およびテキストは確認できない。

⑦ ドイツ科学アカデミー所蔵 (トゥルファン) 本

グルンヴェーデル (Albert Grünwedel) とル・コック (Albert von Le Coq) のトゥルファン探検隊によって発見された断簡中に梵文法華經写本が含まれている。現在はドイツ科学アカデミー Akademie der Wissenschaften (ベルリン) に保管されている。⁽¹⁰³⁾

1) Nr. 622 ; Lüders Nr. Sg 800 (S 60) : 1 断簡, 9 行 (片面のみ)。1904-5 年の第 2 回探検の際に Sängim (勝金 Shêng-chin) で入手された。写真とローマ字テキストはワルトシュミット (Ernst Waldschmidt) によって刊行されている。戸田本 p. 318-9. [SMSR F6]

2) Nr. T. 4 Chotän 8 : 紙本, 1 葉, 中期のグプタ文字, 6 行。1913-14年のル・コックによる第 4 回探検の際にコートンで得られた。本田本 277-278 ; Kn II, 37.12-59.2 ; O 63a1-64a1 ; 戸田本 pp. 270-1. [SMSR F3]

⑧ 大谷本

1902-14年に3回にわたって派遣された大谷探検隊によって中央アジアから将来された写本は、もと関東廳博物館 (旅順) に保管されていた。第二次大戦後に一時ソビエトに接収されたが、その後旅順博物館に戻された模様である。⁽¹⁰⁵⁾

1) 「大谷家出品目録」⁽¹⁰⁶⁾

No. 687	梵字法華經断片	137箇
688	"	65
689	"	27
690	"	19
691	"	1
692	"	2
693	"	2
694	"	12
695	"	2
696	"	2
697	"	2

計271であるが、目録には詳細な記載がないため、その内容については不明である。

2) ミロノフ「大谷伯爵所蔵写本目録」⁽¹⁰⁷⁾

No. 7a : 8 断片 (第 XX 章)

No. 8b : 1 断片 (第 XX 章?)

No. 13b : 1 断片。薬王 Baiṣajyarāja に言及 (第 XXII 章?)

* 1) との関連が明らかでない。

3) ミロノフの覚書

1927年にミロノフ (N. D. Mironov) は大谷探検隊将来品中の西域語文書の断片を調査して、

その内容を紹介している⁽¹⁰⁸⁾。それによれば、橋瑞超氏が東トゥルキスタンから将来した法華經写本は56断片で、これはより大きい34断簡に整理されている。直立グプタ文字で書かれているが、これらはその字体によって4種に分類される。

A本 (Nos. 1-12)：紙本，12断簡（25断片），中央アジアのグプタ文字よりもインドのグプタ文字に近い。11行。主として吐魯蕃 (Turfan) の近くの吐峪溝 (T'u-yü-kou) 出土。日付はないが5世紀中葉の書写と推定される。Kn II, III, IX, X, XIII, XIV, XVI, XVIII, XXI, XXV 章を含む。

B本 (Nos. 12-28)：紙本，28断片，10行。1断片に fol. No. 200 の数字がある。Kn III, IV, VII-XI, XVI, XVII, XIX, XXI-XXIV 章を含む。普門品は偈頌を欠いている。

C本 (Nos. 29-31)：紙本，3断片。Kn X, XVI 章を含む。

D本 (Nos. 32, 33)：紙本，7断片。能書体直立グプタ文字。No. 32はKn XIX-XX, pp. 380-7を含む。ミロノフはこの部分を欠いているカシュガル出土ペトロフスキー本〔O〕に属したものと推定している。しかし、その写真およびテキストは確認できない。No. 31は1断片，8行。Kn XXIII 章を含む。

以上はミロノフの調査の一部であるが、その後彼の中央アジア本法華經研究の覚書がカルカッタのアジア協会で見られ、ダット (N. Dutt) は法華經刊本の出版に当って、これを脚註に付している⁽¹⁰⁹⁾〔SMSR M〕。ダットはミロノフの覚書をスタイン蒐集の中央アジア写本に基づくものと推定している⁽¹¹⁰⁾。しかし、ダット本 pp. 7-17 の註記はスタイン蒐集本 Kha. i. 24, 33, 35, 36 (=本田本 3-6)〔SMSR F3〕に相当するけれども、他の註記はすべてミロノフの記述と一致するので、大谷本によるものと断定しうる⁽¹¹¹⁾。

ミロノフの脚註（ダット本）とケルン本との関連を表示すれば、次の如くである。

ダット本（ミロノフ脚註）	Kn
24.1-18（1-8偈を含む）	II, 30.9-31.8
31.8, 12, 17	41.7, 11, 15
32.20, 22, 24	43.3, 6, 8
33.2	43.9-10
36.1-43.10（69-122偈）	48.13-56.4
55.8-59.19	III, 73.14-79.6
62.19-66.10（53-80偈）	84.13-89.2
73.15-79.11	IV, 101.1-107.6
81.19-85.8（1-28偈）	110.14-114.12
109.4-111.15（1-7偈を含む）	VII, 156.3-159.9
132.22（109c偈）	198.10
133.1-134.8	VIII, 199.1-200.12

138.11-142.10 (29-45偈を含む)		208.10-214.5
143.2-144.14	IX,	215.2-217.7
147.5-22 (12-18偈を含む)		221.13-223.3
148.2-153.12 (1-15偈)	X,	224.2-231.1
154.17; 19, 21-22, 24		233.4, 6, 8-9, 11
155.2		233.13
158.1-160.20	XI,	239.1-242.10
180.11-183.13 (1-11偈を含む)	XIII,	275.9-280.5
196.16-203.2 (3-41偈を含む)	XIV,	302.4-310.8
215.7-217.18 (1-7b 偈を含む)	XVI,	327.6-330.11
220.13-226.2 (32-59b 偈を含む)		336.5-343.13
237.1-243.3 (21-41c 偈を含む)	XVIII,	359.13-364.12
250.5-21 (73-75偈を含む)		374.1-9
251.2-14	XIX,	375.2-376.3
254.1-256.2		380.8-383.4
256.19-257.11 (4b-7c 偈)		384.1-8
258.13-14		385.7
259.1-14	XX,	386.1-387.2
265.2-268.21	XXI,	395.2-401.4
270.3-6		403.7-9
279.15-281.7	XXII,	420.2-422.2
291.20-293.10	XXIV,	444.9-446.11
297.3-13		456.1-10
298.2-300.19	XXV,	457.1-460.3
302.28-305.11		464.10-467.11

4) 西域語文書⁽¹¹²⁾29, 1-2〔SMSR Ot〕

和闐 (Uten) すなわちコータンの近くで出土。直立グプタ文字, 10行。Kn XXIII-XXIV, 434.7-438.6。真田教授はこの写本のローマ字テキストをネパール本と対比して公表している。日付はないが真田教授は5世紀後半と推定している。妙音品を第XXI章とする。戸田本 p. 261.

5) 写本 No. 621〔SMSR Ot〕

トゥルファン近郊のトユク出土。紙本, 1葉(8断片), 直立グプタ文字, 11行残存。Kn XXI, 403.6-403.9, XXV, 457.1-458.4。この写本では陀羅尼品(XXIV)より妙莊嚴王本事品(XXIV)へ連続する。真田教授はこの写本のローマ字テキストをネパール本と対比して公表している。⁽¹¹³⁾日付はないが5世紀の中葉と推定する。戸田本 pp. 261-2.

6) 出土文献研究⁽¹¹⁴⁾ 1985, pp. 191–195 [SMSR Ot]

大谷探険隊によって新疆で蒐集された梵文法華經中の1断簡。現在は旅順博物館に保管されている。紙本、直立グプタ文字、10行。Kn IV, 101.1–103.13。蔣忠新氏によるローマ字テキストが公表されている。

§ 3. 法華經の構成

① 二十七品本と二十八品本

梵文法華經写本と漢訳・チベット語訳を比較するに、それを構成する章 (parivarta 品) とその順序にかなりの異同が認められる。これは、法華經が流伝の過程で種々の変容を示したことの証跡である、といえよう。まずネパール系とカシミール系との写本 (=ケルン本) を、

『正法華經』大正 No. 263, A. D. 286 竺法護訳 [正法華と略す]

『妙法蓮華經』大正 No. 262, A. D. 406 鳩摩羅什訳 [妙法華と略す]

『添品妙法蓮華經』大正 No. 264 闍那崛多・達摩笈多共訳 [添品と略す]

Dam-paḥi chos pad-ma dkar-po shes-bya-ba theg-pa then poḥi mdo, 大谷 No. 781, 東北 No. 113 Surendrabodhi, [Sna-nam] ye-śes sde 共訳

と比較すれば、章の構成および順序は次の如くである。

梵本 (チベット語訳)	正法華經	妙法蓮華經	添品妙法蓮華經
I Nidāna. (Gleñ-gshi)	——光瑞品(1)	——序品(1)	——序品(1)
II Upāyakausaḥya. (Thabs-la mkhas-pa)	——善權品(2)	——方便品(2)	——方便品(2)
III Aupama. (Dpe)	——応時品(3)	——譬喻品(3)	——譬喻品(3)
IV Adhimukti. (Mos-pa)	——信樂品(4)	——信解品(4)	——信解品(4)
V Ośadhī. (Sman)	——藥草品(5)	——藥草喻品(5)	——藥草喻品(5)
IV Vyākaraṇa. (Nan-thos luñ-bstan-pa)	——授声聞決品(6)	——授記品(6)	——授記品(6)
VII Pūrvayoga. (Sñon-gyi sbyor-ba)	——往古品(7)	——化城喻品(7)	——化城喻品(7)
VIII Pañcabhikṣuśatavyākaraṇa. (Dge-sloñ lña-brgya luñ-bstan-pa)	——授五百弟子決品(8)	——五百弟子受記品(8)	——五百弟子授記品(8)
IX Vyākaraṇa. (Kun-dgañ-bo dañ sgra-gcan-zin dañ dge-sloñ nis stoñ luñ-bstan-pa)	——授阿難羅云決品(9)	——授学無学人記品(9)	——授学無学人記品(9)
X Dharmabhāṇaka. (Chos-smra-ba)	——藥王如來品(10)	——法師品(10)	——法師品(10)
XI Stūpasamdarśana. (Mchod-rten bstan-pa)	——七宝塔品(11)	—— { 見宝塔品(11) 提婆達多品(12) }	——見宝塔品(11)
XII Utsāha. (Spro-bar-bya-ba)	——勸說品(12)	——勸持品(13)	——勸持品(12)

XIII Sukhavihāra. (Bde-bar gnas-pa)	——安行品(13)	——安樂行品(14)	——安樂行品(13)
XIV Bodhisattvaṣṭhivivara- samudgama. (Byañ-chub-sems-dpaḥ sa-rum-nas ḥthon-pa)	——菩薩從地踊出品(14)	——從地踊出品(15)	——從地踊出品(14)
XV Tathāgatāyuspramāṇa. (De-bshin-gsegs-paḥi sku- tsheḥi tshad)	——如來現壽品(15)	——如來壽量品(16)	——如來壽量品(15)
XVI Puṅyaparyāya. (Bsod-nams-kyi rnam-graṅs)	——御福事品(16)	——分別功德品(17)	——分別功德品(16)
XVII Anumodanāpuṅyanirdeṣa. (Rjes-su yi-rañ-baḥi bsod- nams bstan-pa)	——勸助品(17)	——隨喜功德品(18)	——隨喜功德品(17)
XVIII Dharmabhāṅgakānuśamsā. (Skye-mched drug rnam- par-dag-paḥi phan-yon)	——歎法師品(18)	——法師功德品(19)	——法師功德品(18)
XIX Sadāparibhūta. (Rtag-tu brñas-pa)	——常被輕慢品(19)	——常不輕菩薩品(20)	——常不輕菩薩品(19)
XX Tathāgatarddhyabhi- samskāra. (De-bshin-gsegs-paḥi rdsu-ḥphrul mñon-par ḥdu-byed-pa)	——如來神足行品(20)	——如來神力品(21)	——如來神力品(20)
XXI Dhāraṇī. (Gzuñs-sñags)	藥王菩薩品(21)	囑累品(22)	陀羅尼品(21)
XXII Bhaiṣajyarājapūrvayoga. (Sman-gyi rgyal-poḥi sñon-gyi sbyor-ba)	妙吼菩薩品(22)	藥王菩薩本事品(23)	藥王菩薩本事品(22)
XXIII Gadgadasvara. (Sañ-sañ-poḥi dbyaṅs)	光世音普門品(23)	妙音菩薩品(24)	妙音菩薩品(23)
XXIV Avalokiteśvaravikurvaṇa- nirdesa. (Spyan-ras-gzigs-dbañ- phyug-gi rnam-par-ḥphrul-pa bstan-ba kun-nas-sgo)	總持品(24)	觀世音菩薩普門品(25)	觀世音菩薩普門品(24)
XXV Śubhavyūharājapūrvayoga. (Rgyal-po dge-ba bkod- paḥi sñon-gyi sbyor-ba)	——淨復淨王品(25)	陀羅尼品(26)	妙莊嚴王本異品(25)
XXVI Samantabhadrotsāhana. (Kun-tu-bzañ-po spro- bar-bya-ba)	——樂賢贊品(26)	妙莊嚴王本事品(27)	普賢菩薩勸發品(26)
XXVII Anuparīdanā. (Yoñs-su gtañ-pa)	——囑累品(27)	普賢菩薩勸發品(28)	囑累品(27)

この中で、梵本、チベット語訳、『正法華』、『添品』が二十七品本の構成であるのに対して、『妙法華』は第 XI 章 (宝塔品) より提婆品を第 XII 章として独立させて二十八品本を構成している。また『妙法華』が囑累品 (XXII) を神力品 (XXI) の次に配列するのに対して、他の諸本は巻末 (XXVII) に置いている。さらに『正法華』と『妙法華』が、藥王品—妙音品—普門品—陀羅尼品の配列を構成するのに対して、梵本、チベット語、『添品』は陀羅尼品を繰り上げて、陀羅尼品—藥王品—妙音品—普門品の配列に改編している。

② 提婆達多品の存欠

鳩摩羅什の『妙法蓮華經』原訳に、提婆達多品が存在したかどうかについては、中国においてもかなり早くから論争があったようである。その発端となったのは智顛 (538-97) の提婆品長安

⁽¹¹⁵⁾宮人淹留説である。これに対して吉蔵（549-623）は、羅什原訳には提婆達多品がなくて二十七品本を構成したが、梁末になって真諦が訳出したのである、との説をたてた。⁽¹¹⁶⁾しかし窺基（632-82）は、梵本には元來提婆達多品が存在したが、鳩摩羅什依用の梵本には脱錯多い辺国の梵本であったため、提婆達多品を欠いていたと論じている。⁽¹¹⁷⁾

その後、この論争は天台と三論・法相の諸家の間で行なわれ、日本においても提婆達多品の訳語の穿鑿にまで発展した。ともかくも現行『妙法華』の提婆達多品の訳例が、他の諸品の訳例と異なることはもとより道生（-434）の『法華經疏』や法雲（467-529）と聖徳太子（574-622）の『法華義疏』に同品が註釈されていないこと、さらに『出三蔵記集』⁽¹¹⁸⁾に流沙より西では『妙法華』に提婆達多品があり、中夏の伝にはこの一品を欠くことを記し、隋の『彦琮録』⁽¹¹⁹⁾には「提婆達多品経 一卷」が『妙法華』に出ずることを録している。これらの記述は、提婆達多品が『妙法華』に編入された証跡であるとみられている。

しかしながら『妙法華』より凡そ2世紀以前に訳出された『正法華』には、すでに宝塔品中に提婆達多品相当部分を含んでいるのであるから、提婆達多品の形成および法華經への編入は、梵本の流伝の過程においてなされたとみなければならない。

ネパール本およびカシミール（ギルギット）本のすべてが宝塔品（XI）中に提婆達多品相当部分を包摂するのに対して、「O」本（Mainz 706）は宝塔品と提婆品を別開して二十八品本を形成している。これに対して、ファルファード・ペーグ出土のスタイン蒐集本（F. x ii. 7, fol. 10a）は、提婆品相当部分を欠き、宝塔品（XI）から勸持品（XII）へ直接に連続している。

漢訳では、『正法華』は「七宝塔品第十一」の中に提婆品相当部分を含んでいるが、宋・元・明・宮内庁の4本は提婆品相当部分の初に「梵志品第十二」の章題を付している。従って現存の『正法華』には、梵志品（＝提婆品多品）を宝塔品に包摂した二十七品本と、梵志品を別開した二十八品本があることを知ることができる。

『妙法華』の現行本は「見宝塔品第十一」「提婆達多品第十二」の両品を別開しているが、『釈教録』⁽¹²⁰⁾には、「八巻 僧祐録は新法華經と言う。初は七卷廿七品となし、後に人、天授品（提婆達多品）を益して二十八を成ず」とあって、二十八品本の存在を明記している。

さて、『正法華』の原訳に梵志品（宝塔品に含まれて）が存在し、『妙法華』の鳩摩羅什原訳に提婆品が含まれていなかったことは、『添品』⁽¹²¹⁾訳出の事情から明らかである。『釈教録』⁽¹²¹⁾『新定釈經目録』⁽¹²²⁾には、宝塔品と天授品を一品とした二十七品本があったことを記し、『添品』⁽¹²³⁾序には、『妙法華』に提婆品が欠けていたので、提婆品を宝塔品に通入したことを伝えている。

次に、提婆品単行流通の例として、『衆經録』⁽¹²⁴⁾に「提婆達多品 一卷」と、『開元録』⁽¹²⁵⁾に「妙法蓮華經提婆達多品第十二 一卷」と伝えている。これに対して、宝塔品と提婆品の単行流通本として、

『薩曇分陀利經』大正 No. 265, 一卷, A. D. 265-316 失訳
が現存しているが、『衆經目録』⁽¹²⁶⁾に「一卷 是れは法華經宝塔品の少分及び提婆達多品なり。是れは法華經別品の殊訳なり」と註記していることによっても、その内容を知ることができる。よっ

て関係の資料は次の5種類に分類できる。

1. 法華經の組織中に提婆品相当部分を含まないもの—ファルハード・ベグ出土梵本、『妙法華』鳩摩羅什原訳
2. 法華經宝塔品中に提婆品相当部分を含むもの—ネパール出土梵本, ギルギット出土梵本, 『正法華』, 『添品』
3. 法華經の組織中で提婆品を別開するもの—中央アジア梵本〔O〕, 現行『妙法華』, 『正法華』の宋・元・明・宮内庁本
4. 宝塔(少分)・提婆品の単行流通本—『薩曇分陀利經』
5. 提婆品の単行流通本—『妙法華』よりの別生

③ 普門品偈頌の存欠

『正法華』光世音普門品では、長行(散文)のみで偈頌は含まれないが、『妙法華』觀世音菩薩普門品には、現行本では長行と偈頌があるが、『添品』序には、普門品の偈を欠くことを指摘している。また智顛の『法華文句』や『觀音義疏』には何等の釈もなく、窺基の『法華玄贊』⁽¹²⁶⁾には、「普門品には頌はなく、後人が添足した」ことを述べている。明の太宗の永樂九年(1411)五月初一日付の「御製序」を付した『妙法蓮華經觀世音菩薩普門品經』⁽¹²⁸⁾一卷には、「姚秦の三藏法師鳩摩羅什が長行を訳し、隋の北天竺沙門闍那崛多が重頌を訳した」ことを記している。しかし『添品』序には普門品の偈について「先賢統出、補闕流行」とあるところから、『添品』訳出以前の翻訳とみなされる。塩田義遜教授は、『続高僧伝』⁽¹²⁹⁾の「觀音偈仏語經を翻じた」記述に基づいて、北周武成三年(561)崛多(Dharmagupta)⁽¹³⁰⁾の訳と推定している。

また『出三藏記集』(502-19)や法經の『衆經目錄』(594)以降に「光世音經 一卷」「觀世音經 一卷」の記述が見出されるのに、「妙法蓮華經普門品重頌偈 一卷」は『歴代三寶紀』⁽¹³¹⁾(597)に現われた後、彦琮の『衆經目錄』(602)や靜泰の『衆經目錄』(602)には見られなくなる。これらの事情から、『正法華』においては、別行された長行の『光世音經』と、編入された「光世音品」が並行して存在したことが、『妙法華』にあっては、初は長行の『觀世音經』と、編入された『普門品』が存在したが、「普門品重頌」(梵本1-26偈)が訳出されるに及んで、重頌は『妙法華』の普門品中に編入されて単經として存在しなくなったが、重頌を含んだ『觀世音菩薩普門品經』は依然として別行されたことを知る事ができる。その後梵本の法華經では、阿弥陀仏(Amitāyus/Amitābha)に言及する偈(27-33偈)が挿入されたが、漢訳されることはなかった。ミロノフ転写の大谷本に普門品重頌を欠いているのは、重頌挿入以前の痕跡と言えよう。

④ その他の相違箇所

以上、諸本にわたって法華經構成上の主な相違点を指摘したが、この他に『添品』と梵本・チベット語訳にのみ存在するものとして譬喩偈の後半と菓草喩品の後半が指摘される。また『正法華』には、五百弟子品と法師品の前部に挿入された文節が顕著である。

次に章の配列の特殊なものとして、

ミロノフ(ダット本脚註)転写	西域語文書 29.1-2	Ot No. 621	Kha.i.305.b(2)
不輕品 XIX ?			
神力品 (?)			
藥王品 XX			
妙音品 XXI	XXI ↓		
普門品 XXII	{XXII}	XXIII ↓	○ ○
陀羅尼品 XXIII		{XXIV}	
妙莊品 {XXIV}			

を指摘できる。

註

- * 本論は『梵文法華經寫本集成——ローマ字本・索引』（塚本啓祥・田賀龍彦・三友量順・山崎守一共著）第1巻「梵文法華經研究會・昭和61年9月」に掲載したものの再録である。
- 1) E. Burnouf, *Le lotus de la bonne loi*, 2 tomes, Paris 1852. Nouvelle édition avec une préface de S. Lévi, Paris 1925. Reproduction, 1 tome, Paris 1973.
 - 2) *The Saddharma-puṇḍarīka, or the Lotus of the True Law*, tr. by H. Kern, *Sacred Books of the East*, Vol. XXI, Oxford 1909.
 - 3) *Saddharmapuṇḍarīka*, ed. by H. Kern & B. Nanjio, *Bibliotheca Buddhica X*, St-Petersbourg 1908-12. Reprint, Osnabrück 1970.
 - 4) *Saddharmapuṇḍarīka-sūtram, Romanized and Revised Text of the Bibliotheca Buddhica Publication by Consulting a Skt. MS. & Tibetan and Chinese Translations*, by U. Wogihara and C. Tsuchida, Tōkyō 1934-35.
 - 5) *Saddharmapuṇḍarīkasūtram, with D. N. Mironov's Readings from Central Asian MSS.*, Revised by Nalinaksha Dutt, *Bibliotheca Indica* No. 276, Calcutta 1953.
 - 6) *Saddharmapuṇḍarīkasūtram*, ed. by P. L. Vaidya, *Buddhist Sanskrit Text* No. 6, Darbhanga 1960.
 - 7) Akira Yuyama, *A Bibliography of the Sanskrit Texts of the Saddharmapuṇḍarīkasūtra*, Australian National University Press, Canberra 1970.
 - 8) ラーフラバドラの讃頌については, *Saddharmapuṇḍarīka-sūtram*, by U. Wogihara & C. Tsuchida, pp. 37-40; 眞田有美・清田寂雲: ペトロフスキー本法華經梵本の研究一序偈より法師品まで一, 『西域文化研究』Ⅳ中央アジア古代語文獻, 1961, pp. 124-8; 塚本啓祥: 法華經讃頌の覚え書, 『法華文化研究』No. 11, pp. 23-66. を見よ。
 - 9) 奥書に関しては, C. Vogel, *The Dated Nepalese Manuscripts of the Saddharmapuṇḍarīka-sūtras*, *NAWG* 1974 (Nr. 5), pp. 199-204; 久留宮圓秀: 法華經梵本寫本奥書研究ノート, 『法華經信仰の諸形態』野村耀昌編, 京都 1976, pp. 109-146. を見よ。
 - 10) Vogel, *op. cit.*, p. 201: (fol. 181a 5) *śamvat 191 kārṭtika-śu<kla>-ṣaṣṭhyām aṅgāra-dine*. Tuesday, 12 October 1070, when the 6th lunar day of the bright Kārṭtika of the expired Newar year 191 began about 7h. 36m. after mean sunrise.

- しかし W. Baruch (*Beiträge zum Saddharmapundarikasūtra*, Leiden 1938, p. 1) は A. D. 1069 / 1070 に比定する。
- 11) *Saddharmapundarikam nāma [ma]hāyāna sūtram* 『貝葉梵文法華經』, 河口慧海・池田澄達編, 梵文法華經頒布會, 東京 1926, 2nd ed. 1956.
- 12) 戸田宏文, *Saddharmapundarikasūtra*, Nepalese Manuscript (K'). Chap. I-IV, 『徳島大學教養部倫理學科紀要』 [TRK] (1980); Chap. V-IX, TRK IX (1982); Chap. X-XVII, TRK XI (1985); Chap. XVIII-XXVII, TRK X (1982).
cf. 戸田宏文: a classification of the Nepalese Manuscripts of the *Saddharmapundarikasūtra* (1), 『徳島大學教養學部』紀要 (人文・社會科學) [TKK] Vol. IX, 1984; (2): TKK Vol. XX, 1985; (3): TKK Vol. XXI, 1986.
- 13) Rāhula Sāṅkṛtyāyana, Second Search of Sanskrit Palm-leaf MSS, in Tibet, *JBORS* XXIII, 1937, pt. 1, p. 28: Vol. XV, No. 211, palm-leaf, kuṭilā 137 fols. 6 lines. [cf. 湯山明: 法華經梵本拾遺(I), 『法華文化』, No. 22 (1972), p. 6.]
- 14) *The Lotus Sutra* 『妙法蓮華經』 ed. by Ji Xianlin, Nationalities Culture Palace 民族文化宮, printed by Printer of Cultural Relics Publishing House, Peking 1984. 奥書 (fol. 137a1) には *Samvat 202 caitra-śukla* と日付する。
- 15) *ibid.*, p. 28, n. 4. Luciano Petech, *Mediaeval History of Nepal* (c. 750-1480), *Serie Orientale Roma X*, Materials for the Study of Nepalese History and Culture 3, Roma 1958, p. 46: ms. *Saddharmapundarika*, Sa-skya monastery in Tibet. Colophon: *Samvat 200-2 caitra-śukla-divā pūrṇāmāsyām | bṛhaspati-dine | hasta-nakṣatre || Pb.-M.-P.-śrīmat-Śāṅkaradevasya vijayarājye varttamāne | ...śrī-Cakavāṭi-Mahādevi-mahāvihāryasākyabhikṣuṇi-Yemendranāthāya. ...śrī-Indramūlasthānādihivāsī amatya-paramopāsaka-śrī-Gunākaraḥiva-Bhallokena svayam likhitam-iti.* The Cakavāṭi monastery is unknown. Indramūlasthāna seems to be the Indreśvara tirtha near Panaoti, to the East of the valley. The date is verified for Thursday, March 17th, 1082.
- 16) Cecil Bendall, *Catalogue of the Buddhist Sanskrit Manuscripts in the University Library, Cambridge*, with Introductory Notices and Illustrations of the Palaeography and Chronology of Nepal and Bengal, Cambridge 1883.
- 17) *ibid.*, p. 172.
- 18) Vogel, *op. cit.*, p. 200: *samvat 159 vaiśākha-śukla-tṛtīyāyām śukra-dine.*
Friday, 30 March 1039, when the 3rd lunar day of the bright Vaiśākha of the expired Newar year 159 ended about 15h. 12m. after mean sunrise.
Petech, *op. cit.*, p. 38; Bendall, *Catalogue*, p. 172; Baruch, *op. cit.*, p. 2.
- 19) Petech, *op. cit.*, p. 44. Vogel, *op. cit.*, pp. 200 f.: *samvat 185 vaiśākha-śukla-dvādaś[am]yām.*
Unverifiable. Either Friday, 30 April 1064, when the 12th lunar day of the bright Vaiśākha of the current Newar year 185 ended about 22h. 12m. after mean sunrise, or—more likely—Wednesday, 20 April 1065, when the 12th lunar day of the bright Vaiśākha of the expired Newar year 185 ended about 14h. 36m. after mean sunrise. Baruch, *op. cit.*, p. 2.
- 20) Petech, *op. cit.*, p. 50. Vogel, *op. cit.*, p. 201: (fol. 132b 3) *varṣānām dviśate trayodaśadhika [!] gate caitra-māse kṛṣṇapakṣe trayodaśī.*
Unverifiable. Sunday, 27 March 1093, when the 13th lunar day of the dark Caitra of the expired Newar year 213 ended about 19h. 48m. after mean sunrise.
- 21) Vogel, *op. cit.*, p. 201: (fol. 132b 4) *samvata 807 mārggaśira-śukla-ṣaṣṭhyām śravana [!]-nakṣatre dhruva-yoge vṛhaspati-vāsare // thvadinakūhnū.*
Thursday, 11 November 1686 O.S. or 21 November 1686 N.S., when the 6th lunar day of the bright Mārggaśirṣa of the expired Newar year 807 ended about 9h. after mean sunrise, the moon stood in the mansion of Śravaṇa until about 10h. 20m. after mean sunrise, and

- the Yoga was Dhruva until about 20h. 36m. after mean sunrise. Baruch, *op. cit.*, p. 2.
- 22) Petech, *op. cit.*, p. 44. Vogel, *op. cit.*, p. 201: (b1) *samvat 185 māgha-kṛṣṇa 2 vājasanyām* [?] *uddha-dine*.
Wednesday, 26 January 1065, when, according to the Brahmasiddhānta, the 2nd lunar day of the dark Māgha of the expired Newar year 185 began exactly 1h. 50m. 48s. before mean sunrise and ended exactly 20h. 8m. 0s. after mean sunrise. Baruch, *op. cit.*, p. 2, n. 6.
- 23) C. Bendall, *Catalogue of the Sanskrit Manuscripts in the British Museum*, London, 1902, p. 225.
- 24) Baruch, *op. cit.*, p. 3.
- 25) J. B. Cowell and J. Eggeling, *Catalogue of Buddhist Sanskrit Manuscripts in the Possession of the Royal Asiatic Society (Hodgison Collection)*, *JRAS* 1876, pp. 1-52.
- 26) Baruch, *op. cit.*, p. 3.
- 27) A. Cabaton, *Catalogue sommaire des manuscrits Sanscrits et Pālis*, Bibliothèque Nationale, Département des manuscrits, 1er Fasc. Manuscrits Sanscrits, Paris 1907, p. 17; J. Filliozat, *Catalogue du fonds Sanscrit*, Bibliothèque Nationale, Département des manuscrits, Fasc. I, Paris 1941, p. 84.
- 28) Vogel, *op. cit.*, p. 203: *dahana-vasu-gajēndau vikrame śāka-varṣe vasu-jaladhi-ghane Naiṣālike* <'> *try-abdhi-khete // tapasi vikala-candre*.
Unverifiable. Either Wednesday, 8 March 1826, when the new-moon day of Tapas (Māgha) of the current Vikrama, Śāka, and Newar years 1883, 1748, and 947 respectively ended about 15h. 12m. after mean sunrise, or—more likely—Sunday, 25 February 1827, when the new-moon day of Tapas (Māgha) of the expired Vikrama, Śāka, and Newar years 1883, 1748, and 947 respectively ended about 22h. 24m. after mean sunrise.
- 29) J. Filliozat, *Catalogue des manuscrits Sanscrits et Tibétain de la Société Asiatique*, *JA* CCXXXIII, 1941-1942 (1945), p. 9, No. 2.
- 30) S. Matsunami, *A Catalogue of the Sanskrit Manuscripts in the Tokyo University Library*, Tokyo 1965.
- 31) Baruch, *op. cit.*, p. 5.
- 32) Vogel, *op. cit.*, pp. 203 f.: (fol. 194b 5) *saṃ 927 māgha śu 5*.
Unverifiable. Either Saturday, 25 January 1806, when the 5th lunar day of the bright Māgha of the current Newar year 927 ended about 1h. 36m. after mean sunrise, or—more likely—Thursday, 12 February 1807, when the 5th lunar day of the bright Māgha of the expired Newar year 927 ended about 21h. 24m. after mean sunrise—This is not, however, the date of copying. p. 204, n. 13, Baruch, *Beiträge*, p. 5, misreads the year as 921.
- 33) Baruch, *op. cit.*, p. 5.
- 34) *ibid.*
- 35) H. P. Shāstri, *A Descriptive Catalogue of Sanscrit Manuscripts in the Government Collection*, Under the Care of the Asiatic Society of Bengal, Vol. I Buddhist Manuscripts, Calcutta, 1917, pp. 11 f.
- 36) Vogel, *op. cit.*, p. 200: *Nepālābde gagana-bindu-nāgāśvina-kṛṣṇa-trayodaśi-hastā-ravi-dine* and *Nepāla-bhākhā samvat 801 āśvina vadvi 13 āditya-vāra kuhnu sampūrṇa dina*.
Sunday, 10 October 1680 O. S. or 20 October 1680 N. S., when the 13th lunar day of the dark Āśvina of the expired Newar year 800 or the current Newar year 801 ended about 7h. 24m. after mean sunrise and the moon stood in the mansion of Hastā until about 22h. 47m. after mean sunrise.
Baruch: *op. cit.*, p. 4.

37) Shāstri, *op. cit.*, p. 12; Vogel, *op. cit.*, p. 200: *sambat 833 pauṣa-māse kṛṣṇa-pakṣe dvādaśyān tithau jyeṣṭhāpara-mūlā-nakṣatre vyāghāta-yoge soma-vāsare mak<a>ra-rāsi-gate savitari dhanu-rāsi-gate candramasi thvakuhnū.*

Monday, 12 January 1713 O.S. or 23 January 7113 N.S., when the 12th lunar day of the dark Pauṣa of the expired Newar year 833 ended about 19h. 36m. after mean sunrise, the moon stood in the constellation of Dhanu (Sagittarius) from about 3h. 57m. after mean sunrise and passed from the mansion of Jyeṣṭhā into that of Mūlā at the same time, the sun stood in the constellation of Makara (Capricorn), and the Yoga was Vyāghāta until about 20h. 3m. after mean sunrise.

Baruch, *op. cit.*, p. 4.

38) R. Mitra, *The Sanskrit Literature of Nepal*, Calcutta 1882, Reprint 1971.

39) *Bira-pustakālaya-sṭha-pustakānām Brhatsūcipatram*, yasyām bauddhaviṣayakaḥ Saptamo bhāgaḥ, tasyām tṛtiya-khaṇḍaḥ, paṃ. Buddhisāgaraśarmaṇaḥ adhyakṣatyānām paṃ. Pūrṇaratnavajrācārya “Sāhityaśāstriṇā” sampāditaḥ Birapustakālayataḥ prakāśitaḥ ca, Purātatvaprakāśanamālā 39, VI. Saṃ. 2023 (A. D. 1966).

cf. Buddhist Manuscripts of the Bir Library, ed. by Sanskrit Seminar of Taisho University, 『大正大學研究紀要』, No. 40, 1955, No. 207, te 737 / 8 [Yuyama Na], te 781 / 1 [Yuyama Nb], te 140 (?240) / 3 [Yuyama Nc], te 259 / 1 [Yuyama Nd], te 613 / 1 [Yuyama Ne], te 678 / 1 [Yuyama Nf], ca [Yuyama Ng].

40) Vogel, *op. cit.*, p. 202: (fol. 226b 1-2) *samvat 960 mti māgha-[māgha-]māsya-śukla-pakṣa-śaṣṭhyā [yā]m mahāpuṇya-tithau aśvinī [!]-nakṣatre śubha-yoge yathā<ka>rṇna-mahotre [!] āditya-vā [ra]sare mak<a>ra-rāsi-śavitre [!] meṣa-rāsi-gate candramasi.*

Sunday, 9 February 1840, when the 6th lunar day of the bright Māgha of the expired Newar year 960 ended about 6h. 12m. after mean sunrise, the moon stood in the constellation of Meṣa (Aries) for the whole day and in the mansion of Aśvinī until about 11h. 32m. after mean sunrise, the sun stood in the constellation of Makara (Capricorn), and the Yoga was Śubha until about 2h. 32m. after mean sunrise.

41) Vogel, *op. cit.*, p. 202: (fol. 176b 5-6) *saṃvata 939 // mti vaiśākha-māse sukla-pakṣe trayodasyā [yā]m tithau citrā-nakṣatre śuddhi [!]-yoge jathākarṇna-mukutre [!] saniśvra [!]-vā [ra]sare mekha-rāsi-gate savitari kanya [!]-rāsi-gate candramasi.*

Saturday, 8 May 1819, when the 13th lunar day of the bright Vaiśākha of the expired Newar year 939 ended about 1h. 24m. after mean sunrise, the moon passed from the constellation of Kanyā (Virgo) into that of Tulā (Librae) about 1h. 31m. before mean sunrise and stood in the mansion of Citrā until about 10h. 38m. after mean sunrise, the sun stood in the constellation of Meṣa (Aries), and the Yoga was Siddhi until about 11h. 35m. after mean sunrise.

42) H. P. Śāstri, *A Catalogue of Palm-Leaf & Selected Paper MSS. Belonging to the Durbar Library, Nepal*, Vol. II, Calcutta 1915, p. 248 (in Traditional Gupta).

43) 中村瑞隆; 貝葉法華經斷簡, 『法華文化』 No. 2, 1967, pp. 5-7.

44) 長尾雅人: カトマンドウの佛教寫本典籍, 『岩井博士古稀記念論文集』, 東京 1963, p. 14.

45) *Nepāla-rāṣṭriya-pustakālaya-sṭha-hasta-likhita-pustakānām Sūcipatram*, yasyāyaṃ Bauddha-darśana-viśayaḥ, prathama-bhāgaḥ, tasyāyaṃ prathama-khaṇḍaḥ, Purātatva-granthamālā 26, Vi. saṃ. 2021 (A. D. 1964). cf. Nagao, *op. cit.*, p. 17: Nos. 11, 19.

46) Vogel, *op. cit.*, p. 202: (fol. 175b 2) *Nepālāvde gaganatara-hite samvat 818 vaiśākha-māse sukla-pakṣe // trayodasyāyā hasta-nakṣetre [!] harṣaṇa-yoge vudha-vāsare dina thvakuhnū.*

Wednesday, 13 April 1698 O.S. or 23 April 1698 N.S., when the 13th lunar day of the

bright Vaiśākha of the expired Newar year 818 ended about 2h. 12m. after mean sunrise, the moon stood in the mansion of Hastā until about 7h. 26m. after mean sunrise, and the Yoga was Harṣaṇa until about 5h. 13m. after mean sunrise.

- 47) Vogel, *op. cit.*, p. 203. (fol. 200a 5-6) *samvat 972 miti māgha-māse śukla-pakṣe daśamyām tithau kirttikāp<a>ra-rohiṇi [!] -nakṣetre [!] śaniśvara [!] -vāsare.*

Saturday, 31 January 1852, when the 10th lunar day of the bright Māgha of the expired Newar year 972 ended about 21h. 24m. after mean sunrise and the moon passed from the mansion of Kṛttikā into that of Rohiṇi about 3h. 20m. after mean sunrise.

- 48) Vogel, *op. cit.*, p. 199.

- 49) *ibid.*, pp. 202: (fol. 249a 3-4) *samvat 962 āśāḍha-māse kṛṣṇa-pakṣe aṣṭamī [yā]n tithau revati-nakṣetre [!] śūra-yoge śaniśvara [!] -vā [ra] sare karkkaṭa-rāśi-gate savitari mina-rāśi [!] -gate candramasi.*

Saturday, 30 July 1842, when the 8th lunar day of the dark Āśāḍha of the expired Newar year 962 ended about 21h. 24m. after mean sunrise, the moon stood in the constellation of Meṣa (Aries) and in the mansion of Aśvini (having left the constellation of Mīna [Pisces] and the mansion of Revatī about 18h. 13m. before mean sunrise), the sun stood in the constellation of Karkkaṭa (Cancer), and the Yoga was Śūla until about 8h. 45m. after mean sunrise.

- 50) Vogel, *op. cit.*, p. 203: (fol. 249a 6-b 1) *samvat 952 miti jyeṣṭha-śudi 6 soma-vāla thvakuhnu.*

Monday, 4 June 1832, when the 6th lunar day of the bright Jyāiṣṭha of the expired Newar year 952 ended about 10h. 12m. after mean sunrise.

- 51) 足利悳氏：『京都大學梵文學研究所藏寫本目錄』(タイプ版)

- 52) *A Succinct Catalogue of the Sanskrit Manuscripts in the possession of the Faculty of Letters, Kyoto University*, compiled by Kiyotaka Goshima and Keiya Noguchi, Kyoto 1983, p. 32, No. 110.

- 53) N. D. Mironov, *Catalogus codicum manuscriptorum Indicorum qui in Academiae Imperialis Scientiarum Petropolitanae Museo Asiatico*, fasc. I, Petropoli 1914, pp. 326-29.

- 54) Rāhula Sāṅkṛtyāyana, Sanskrit Palm-leaf MSS. in Tibet, *JBORS XXI*, 1935, pt. p. 27.

- 55) *ibid.*, p. 29: Vol. XVI, No. 212, palm-leaf, ramjana 158 fols. 5 lines.

- 56) Petech, *op. cit.*, p. 43: *Pūrṇe vedma (or ṣaḍga ?) yuto (?) varṣe śate śāradasaṅgate | māse mṛṣṭāṅkīte (?) ramye mṛgāṅkaharamaṇḍane navamyām Rohiṇe ṛkṣe prabhātārkkadine śubhe | kṛtāri-Baladevākhye kṣitīm rakṣati kṣmādhipe | vārtita-Kalyāṇaguptena kārīte sugatālaye | Māhendramativikhyātā buddhadharmāṅkadhārīni ||* It is a pity that the editor could not make out the year and month more clearly and that the reading is so uncertain. The chronological details, however, are sufficient to reach a definite result. During the years from 1048 (last known date of Bhāskaradeva) to 1063 (first known date of Pradyumnakāmadeva) the combination *śuklapakṣa*—9th *tith*—Rohiṇi *nakṣatra*—Sunday can be verified only for two dates: 176 Māgha *śukla* 9; and 179 Māgha *śukla* 9, second half of the day. I prefer the first alternative, because of the tentative reading *ṣaḍga* in the number of the year. Accordingly, the date is verified for Sunday, January 28th, 1056.—The place of copying cannot be identified.

- 57) A. Stein, *Archaeological Discoveries in the Hindukush*, *JRAS* 1931, pp. 863 f.; S. Lévi, *Note sur des manuscrits Sanscrits provenant de Bamiyan (Afghanistan) et de Gilgit (Cachemire)*, *JA* CCXX, 1932, pp. 13-15 (II. Manuscrits Gilgit, A Mission Citroën); N. Dutt, *Gilgit Manuscripts*, Vol. I. Srinagar-Kashmir 1939, pp. 41-42.

- 58) Lokesh Chandra, Unpublished Gilgit Fragment of the Prātimokṣa-sūtra, *WZKSO IV*, 1960, pp. 12-13.

- 59) *Gilgit Buddhist Manuscripts* (Facsimile Edition), Gilgit-bauddha-granthāvaliḥ, pts. 9-10, (*Śata-Piṭaka Series, Indo Asian Literatures*, Vol. 10), reproduced by Raghu Vira and Lokesh Chandra, New Delhi 1974, Facsimile Nos, 2785-3220.
- Cf. 松濤誠廉：法華經原典の寫本—法華經文化研究所所有のギルギット本寫本寫眞版の整理—, 『法華經の成立と展開』金倉圓照編, 京都 1974。
- 久留宮圓秀：ギルギット出土法華經寫本の寫眞版, 『法華文化研究』No. 2, Tokyo 1976.
- 60) *Saddharmapūṇḍarika Manuscripts Found in Gilgit*, ed. by Shōkō Watanabe, pt. I Photographic Reproduction, Tokyo 1972, pt. II Romanized Text, 1975.
- 61) 戸田宏文：Saddharmapūṇḍarikasūtra Gilgit Manuscripts (Group B and C), 『徳島大學教養部紀要』(人文・社會科學), Vol. 14. 1979.
- 62) Baruch, *op. cit.*, p. 13, n. 26.
- 63) S. Levi, *JA* CCXX, 1932, pp. 16-17 (Facsimile: 4, 6a), p. 21 (Text: 4), p. 45 (Text: 6).
- 64) J. P. Losty, *A Catalogue of Sanskrit and Prakrit Manuscripts in the British Museum*, Vol. II, p. 22, No. 431.
- 65) 『西域出土梵本法華經』本田博士選曆記念梵本法華經刊行會 (*Sanskrit Manuscripts of Saddharma-pūṇḍarika*, excavated by Sir Aurel Stein and the Citroën Central Asiatic Expedition of France at Eastern Turkestan and Gilgit, photographed by Dr. Giei Honda and the Right Reverend Jōjun Deguchi, by favour of British Museum; India Office Library, London; Akademie der Wissenschaften, Berlin; Musée Guimet, Paris), published by Indology Seminary, Kyoto University, Kyoto, 1949, Nos. 225-236.
- 66) W. Baruch, *op. cit.*, Facsimile: (I. Beilage) Ia, Ib, IIa, IIb, IIIa, IIIb, Text, pp. 16-27.
- 67) 小島文保：A Note on *Saddharmapūṇḍarika Sūtra*, the sanskrit manuscript unearthed in Gilgit in Kashmir, India, 『龍谷大學論集』No. 347, 1954, pp. 29-38; No. 225-234.
- 68) 兜木正亨：スタイン本とペリオ本の法華經, 『法華文化』No. 6 (1968), p. 3; 梵文法華經寫本—ギルギット本—, 『法華文化』No. 8 (1969), pp. 5-7.
- 69) S. Watanabe, *op. cit.*, pt. 2, Facsimile: Ia-VII b; Text: pp. 297-307.
- 70) H. Toda, *op. cit.*, pp. 271 f.
- 71) P. V. Bapat, Another Valuable Collection of Buddhist Sanskrit Manuscripts, containing among others the Śrāmaṇya-phala Sūtra in Sanskrit, *ABORI* XXX, 1949, pp. 250-1, Plate IIIa, b (to face pages 250, 251).
- 72) H. Toda, *op. cit.*, pp. 303-4.
- 73) Oskar von Hinüber, *A New Fragmentary Gilgit Manuscript of the Saddharmapūṇḍarikasūtra*, Tokyo, 1982.
- 74) 湯山明：中央アジアの梵語佛典, 『東洋學術研究』Vol. 23, No. 1, 1984, pp. 68-92.
- 75) 清田寂雲：ベテロフスキー本法華經原典について, 『印度學佛教學研究』Vol. V, No. 1 (1957), pp. 185-91, folio 59a, b の寫眞を付す。
- 76) 眞田有美：西域梵本法華經の一寫本について, 『石濱先生古稀記念・東洋學論叢』關西大學, 大阪 1958。
- 眞田有美・清田寂雲：ベテロフスキー本法華經梵本の研究—序偈より法師品まで, 『西域文化研究』IV, 京都 1961, pp. 119-70.
- 77) *Saddharma-pūṇḍarika-sūtra Kshgar Manuscript*, ed. by Lokesh Chandra, 1st edition: *Śata-Piṭaka Series*, Vol. CCXXIX, Indo-Asian Literature, published by the International Academy of Indian Culture, New Delhi, 1976; 2nd edition: published by the Reiyūkai, Tokyo, 1977.
- 78) 戸田宏文：Saddharmapūṇḍarikasūtra, Kashgar Manuscript, 『徳島大學教養部倫理學科紀要』Chap. I: Vol. IV, 1978; Chap. II-III: Vol. VII, 1979; Chap. IV-VII: Vol. I, 1977; Chap. VIII-XIX: Vol. II, 1977; Chap. XX-XXI: Vol. III, 1978; Chap. XXII-XXVIII: Vol. V, 1978.

- Saddharmapundarikāsūtra*, *Central Asian Manuscripts, Romanized Text*, ed. by Hirofumi Toda, Tokushima, 1981, pp. 1-225.
- 戸田宏文：西域出土梵文法華經研究覺書，『徳島大學教養部紀要』（人文社會科學），No. 1: Vol. IV, 1969; No. 2: Vol. VI, 1971; No. 3: Vol. VII, 1972; No. 4: Vol. VIII, 1973; No. 5: Vol. IX, 1974; No. 6: Vol. X, 1975; No. 7: Vol. XI, 1976.
- 戸田宏文：西域出土梵文法華經覺書，『日本佛教學會年報』No. 36, 1971.
- 79) G. M. Bongard-Levin, Dva Novykh Fragmenta <Saddharmapundariki> (predvaritel'noe soobščenie), *Indijskaja Kul'tura i Buddhism, Indian Culture and Buddhism*, Sbornik statej pamjati akademika F. I. Ščerbatskogo, Moskva, Izdatel'stvo <Nauka> 1972, pp. 187-191. Facsimile: p. 188.
- 80) *ibid.*, Facsimile: p. 189.
- 81) G. M. Bongard-Levin and E. N. Tyomkin, Fragment of an Unknown Manuscript of the *Saddharmapundarika* from the N. F. Petrovsky Collection, *IJ* Vol. VIII, No. 4 (1965), pp. 268-74. Fig. 1-5, pp. 269-272.
- Akira Yuyama, Supplementary Remarks on "Fragment of an Unknown Manuscript of the *Saddharmapundarika* from the N. F. Petrovsky Collection" by G. M. Bongard-Levin and E. N. Tyomkin, *IJ* Vol. IX, No. 2 (1966), pp. 85-112.
- 82) G. M. Bongard-Levin i M. I. Vorobyova-Desyatovskaya, *Pamjatniki Indijskoj Pis'mennosti iz Tsentral'noj Azii*, Vypusk 1, Pamjatniki Pis'mennosti Vostoka LXXIII, 1, *Bibliotheca Buddhica* XXXIII, *Saddharma-Pundarikasutra* (Novye fragmenty) (pp. 77-160), Facsimile Ris. 22-193 (pp. 198-285), Moskva, 1985, Izdatel'stvo <Nauka>.
- , Indian Texts From Central Asia, *Indian Historical Review*, Volume IX, Number 1-2, pp. 31-62.
- 83) F. E. Pargiter, Inventory List of Manuscript Remains Mainly in Sanskrit, *Innermost Asia, Detailed Report of Explorations in Central Asia, Kan-su and Eastern Iran*, carried out and described by Aurel Stein, Oxford, 1928, Vol. II Text; Vol. III Plates and Plans, Appendix E. pp. 1017-25.
- 84) A. F. Rudolf Hoernle, Inventory List of Manuscripts in Sanskrit, Khotanese and Kuchean, *Serindia, Detailed Report of Explorations in Central Asia and Westernmost China*, carried out and described by Aurel Stein, Oxford, 1921, Vol. III Text, Appendix F, pp. 1432-47. cf. pp. 154 ff.
- 85) India Office Library, Commonwealth Relation Office, Sanscrit manuscript fragments from the Stein and Hoernle Collections, Microfilmed June 1950. fols. 1-85, 208-212.
- 86) 眞田有美：梵文佛典資料，『西域文化研究』IV, pp. 54-55.
- 87) 本田義英：『佛典の内相と外相』，東京 1934, pp. 400-1.
- 88) N. Dutt, *Saddharmapundarikāsūtram*, pp. 7-17, Notes.
- 89) 本田義英：*op. cit.*, pp. 407-12.
- 90) 眞田有美：*op. cit.*, p. 57.
- 91) *ibid.*
- 92) *Serindia*, Vol. III, pp. 1455-6. cf. p. 1254.
- 93) L. de la Vallée-Poussin, Documents Sanscrits de la Seconde Collection, *JRAS* 1911, pp. 1067-77.
- 94) 戸田宏文：Saddharmapundarikāsūtra, Farhād Bēg Manuscript, Chap. XI-XII: 『徳島大學教養部倫理學科紀要』Vol. IV, 1978; Chap. XIII-XV; Vol. V, 1978.
- 95) note 85, fols. 86-208.
- 96) A. F. Rudolf Hoernle, *Manuscript Remains of Buddhist Literature Found in Eastern Turkestan*,

- Facsimiles with Transcripts, Translation, and Notes*, Vol. I, Oxford, 1916; Reprinted by Ad Orientem, St. Leonards and Philo Press. Amsterdam, 1970. [Hoernle と略す]
- 97) 戸田宏文: *Central Asian Manuscripts*, III Sanskrit Manuscript fragments, India Office Library (fols. 171-176), 『徳島大學教養部倫理學科紀要』IV, 1979. これは *Saddharmapundarika*, *Central Asian Manuscripts* 中に再録されている。
- 98) Heinz Bechert, Über die “Marburger Fragmente” des *Saddharmapundarika* (mit einem Beitrag von Jongchay Rinpoche), *Nachrichten der Akademie der Wissenschaften in Göttingen*, I. Philologisch-historische Klasse, Jahrgang 1972, Nr. 1, Göttingen 1972.
- 99) E. Huntington, *The Pulse of Asia: A Journey in Central Asia Illustrating the Geographic Basis of History*, London, 1907.
- 100) E. Leumann, Bibliographische Notizen über zwei nordarische und zwei sanskritische Fragmente, *ZDMG*, LVII (1913), p. 680.
- 101) Yuyama, A. and Toda, H., The Huntington Fragment F of the *Saddharmapundarikasūtra*, *Studia Philologica Buddhica, Occasional Paper Series II*. Tokyo. The Reiyūkai Library, 1977.
- 102) J. N. Reuter, some Buddhist Fragments from Chinese Turkestan in Sanskrit and “Khotanese”, *JSFO XXX 37* (1913-18), p. 7; Reprint, *C. G. Mannerheim—Across Asia from West to East in 1906-1908*, Vol. II, Helsinki 1940, p. 7; 本田義英: 『西域出土梵本法華經』 pp. IX-X; Yuyama, A., *A Bibliography of the Sanskrit Texts of the Saddharmapundarikasūtra*, p. 29.
- 103) 本田義英 *op. cit.*, p. XV.
- 104) E. Waldschmidt, *Sanskrithandschriften aus den Turfanfunden, Verzeichnis der Orientalischen Handschriften in Deutschland*, Bd. X, I; Teil I, Wiesbaden, 1965, pp. 278-9. Tafel 31.
- 105) 藤枝晃: 大谷コレクションの現状, 『りゅうこく』No. 19, 1978, pp. 6-9.
- 106) 關東廳博物館大谷家出品目録, 『新西域記』, 上原芳太郎編, Vol. II, 東京 1937, 付録 2.
- 107) N. D. Mironov, *A List of Fragments of Brahmi MSS. belonging to Count Ohtani*, Shanghai, 1923?; 『西域文化研究』Vol. IV, p. 93. に再録。
- 108) Mironov, *Buddhist Miscellanea*, H. *Central Asian Recension of the Saddharmapundarika*, *JRAS* 1927, pp. 252-74.
- 109) N. Dutt, *Saddharmapundarikasūtram, with N. D. Mironov's Reading from Central Asian MSS*, *Bibliotheca Indica* No. 276, Calcutta, 1953.
- 110) *ibid.*, Preface.
- 111) 眞田有美: 大谷探検隊將來梵文佛典資料, 『西域文化研究』Vol. IV, 京都 1961, p. 62.
- 112) 『西域考古圖譜』大谷光瑞編, Vol. II (東京 1915) 西域語文書, XXIX-1, 2; 『西域文化研究』Vol. IV, 挿圖 II, 1-2. に再録。
- 113) *ibid.*, pp. 66-71. 挿圖 I. 1-2.
- 114) 『出土文獻研究』1985, pp. 191-195; 將忠新, 記旅順博物館收藏的梵文《法華經》寫本殘片, 文化部文物事業管理局古文獻研究室編, 北京 1985.
- 115) 『妙法蓮華經文句』大正 34, 114 c.
- 116) 『法華義疏』大正 34, 452 a-b.
- 117) 『妙法蓮華經玄贊』大正 34, 659 a—b.
- 118) 大正 55, 13 b.
- 119) 大正 55, 162 c.
- 120) 大正 55, 921 b; 1027 a.
- 121) 大正 55, 548 b.
- 122) 大正 55, 107 a—b.
- 123) 大正 9, 134 c.
- 124) 大正 55, 124 a.

- 125) 大正 55, 536 a.
 - 126) 大正 55, 124 a.
 - 127) 大正 34, 660 a.
 - 128) 大正 9, 198 a—b.
 - 129) 大正 50, 433 c.
 - 130) 鹽田義遜：『法華經の研究』, 東京 1943, p. 237.
 - 131) 大正 49, 100 c.
- * 本稿の作成に當って、資料の蒐集に奥山直司・山崎守一兩君の協力を得た。記して謝意を表したい。

Table I. Contents of Nepalese, Kashmir and Central Asian MSS. (1)

	Kn	SMSR	K	Pk NO.004	C1 Add. 1032	C2 Add. 1324	C3 Add. 1682	C4 Add. 1683
S		Vol.1	1b1-2a3	1b1-2a1				
I	1.1-28.13	1-416	2a3-11b5	2a1-10a5	1b1-7b8	1b1-8a3	1b1-11a5	1b1-10a3
II	29.1-59.7	1-461	11b5-23a4	10a5-18a6	7b8-13b15	8a3-14b1	11a5-22a2	10a3-19b1
III	60.1-99.7	1-541	23a4-37b3	18a6-29a4	14a1-21b18	14a1-23a11	22a2-35a6	19b1-31b6
IV	100.1-120.9	4	37b3-45b4	29a4-35a4	22a1-26a12	23a11-27b9	35a6-41b1	31b6-45a2
V	121.1-143.7	1-320	45b4-54b1	35a5-41a5	26a12-30a12	27b9-32b1	41b1-47b3	38a6-45a2
VI	144.1-155.9	1-151	54b1-59a1	41a5-44a6	30a13-32b8	32b1-34b11	47b3-50b3	45a2-48b3
VII	156.1-198.11	1-593	59a1-76b3	44b1-57a2	32b8-40b13	34b11-43a8	50b3-64b2	48b3-63a1
VIII	199.1-214.5	1-190	76b3-82b1	57a2-61a5	43a9-43b13	43a8-46a10	64b2-69b5	63a1-67b2
IX	215.1-223.4	1-112	82b2-86a1	61a6-63b5	43b13-45b8	46a10-47b12	69b5-73a1	67b2-70a3
X	224.1-238.5	1-195	86a1-91b2	63b5-67b5	45b8-48b2	47b12-50b1	73a2-78a1	70a3-74a4
XI	239.1-256.6	7	91b1-	67b5-	48b2-	50b1-	78a1-(83b5)	74a4-
XII	256.7-266.4	241-379	103b1	76a6	54a2	56a2	*	82b4
XIII	267.1-274.11	1-100	103b1-106a4	76a6-78b1	54a2-55a7	56a2-57a11	*	82b4-84b2
XIV	275.1-296.3	8	106a4-113b2	78b1-84a5	55a7-58b17	57a11-61a2	*	84b2-89b2
XV	297.1-314.6	1-268	113b2-120b4	84a5-90a2	58b17-61b7	61a2-64b5	*	89b2-94b1
XVI	315.1-326.13	1-159	120b4-125b4	90a2-93b5	61b7-64a3	64b5-67a5	*	94b1-97b7
XVII	327.1-344.7	1-234	125b4-131b4	93b5-98b3	64a3-66b16	67a5-70b3	*	97b7-102a3
XVIII	345.1-353.7	1-116	131b5-135a1	98b3-101a5	66b16-68b6	70b3-72a10	*	102a3-104b3
XIX	354.1-374.9	1-273b	135a1-142a4	101a5-106b5	68b6-72a2	72a10-75b14	*	104b3-110a1
XX	375.1-385.7	1-133	142a4-146a2	106b5-110a2	72a7-73b14	75b14-78a8	*	110a1-113b3
XXI	386.1-394.8	1-102	146a2-149a2	110a2-112a6	73b14-75a12	78a8-79b11	*	113b3-116a4
XXII	395.1-403.9	1-87	149a2-151a5	112a6-114a6	75a12-76b4	79b12-81a4	*	116a4-118a6
XXIII	404.1-422.2	1-237	151a6-159a4	114a6-120b1	76b4-80a6	81a4-84b14	*	118a6-124a5
XXIV	423.1-437.3	1-184	159a4-165a1	120b1-125a2	80a6-82b12	84b14-87b12	*	124a6-128b4
XXV	438.1-456.10	1-174	165a1-169b4	125a2-128b4	82b12-85a1	87b12-90a7	*	128b4-132a4
XXVI	457.1-471.6	1-167	169b4-175b2	128b4-133a1	85a1-87b12	90a7-93a4	*	132a4-135a5
XXVII	472.1-483.8	1-123	175b2-177b5	133a1-136a1	87b12-89b9	93a4-95a12	*	135a6-138a6
XXVIII	484.1-487.7	1-40	177b5-181a3	136a2-137a1	89b9-90a7	95a12-96a1	*	138a6-139a6
C	487.8-	1-24	181a3-182b5	137a1-137a3	90a7-90a9	96a1-96a4	*	139a6-140a5

Table I. (2)

	C5 Add. 1684	C6 Add. 2197	C7=O6 α Add. 2197	B Or. 2204	R No. 6	P1 Nos. 138-139	P2 Nos. 140-141	P3 No. 2	T1 No. 102(1)
S									
I	(2a1)-10b2	*1b1-(1b5)		1b1-13a4	1b1-13a4	1b1-15a3	1b1-14a3	1b1-18b1	1a1-5
II	10a2-19a3	*11b1-20b5		13a4-24a4	13a4-24a4	15a3-28b7	14a3-27a2	18b1-35b3	7b3-9b9
III	19a3-31b4	20b5-52a2		24a4-37b4	24a4-37b4	28b7-47a4	27a2-37b4	35b3-56b4	
IV	31b4-38a4	32a2-37b4		37b4-45a4	37b4-45a4	47a4-57a6	37b4-52b6	56b5-67b6	
V	38a4-45b1	37b4-43b3		45a4-53a2	45a4-53a2	57a7-67b5	53a1-62a6	68a1-79b2	
VI	45b1-49b1	43b3-46b3		53a2-57a3	53a2-57a3	67b5-73a4	62a6-67a5	79b2-85b2	
VII	49b1-64b5	46b3-58a1		57a3-73a1	57a3-73a1	73a4-94b1	67a5-86b2	85b2-109a6	
VIII	64b5-69b5	58a1-62a2		73a1-78a2	73a1-78a2	94b1-101b2	86b2-93a2	109a6-117a1	
IX	69b5-70b3	62a2-64a6		78a2-81a3	78a2-81a3	101b2-105a9	93a2-96b4	117a1-121a6	
X	72b4-76b3	64a6-67b6		81a3-86a4	81a3-86a4	105b1-112a3	96b5-103a1	121a6-129a1	
XI	76b3-	67b6-		86a4-	86a4-	112a3-	103a1-	129a1-	
XII	86a3	75b5		96b6	96b6	126b4	115a5	144b2	
XIII	86a3-88b4	75b5-77b2		96b6-99a6	96b6-99a6	126b4-130a5	115a5-118a6	144b3-148a4	
XIV	88b4-95a5	77b2-82a5		99a6-106b2	99a6-106b2	130a5-140a1	118a6-126b5	148a4-158b6	
XV	95a5-102b3	82a5-(85b6)		106b2-113a5	106b2-113a5	140a1-148b7	126b5-135a2	158b6-168b5	
XVI	102b3-107a5	(87a1)-90a2		113a5-118a1	113a5-118a1	148b7-154b9	135a2-140b5	168b5-175b1	
XVII	107a5-112b5	90a2-94a4		118a1-123b1	118a1-123b1	154b9-162b3	140b5-147b3	175b1-184a6	
XVIII	112b5-115b3	94a4-96b2		123b1-126b4	123b1-126b4	162b3-166b1	147b3-151b2	184a6-189a2	
XIX	115b3-122a5	96b2-101b5		126b4-135b5	126b4-135b5	166b2-174b2	151b2-160a1	189a2-198b2	
XX	122a5-126a1	102a1-105a4		135b5-138a1	135b5-138a1	174b2-180a5	160a1-164b1	198b2-203b4	
XXI	126a1-128b2	105a4-107b4		138a1-140b6	138a1-140b6	180a5-183b9	164b1-168a2	203b4-207b5	
XXII	128b2-131a1	107b4-109b4		140b6-143b2	140b6-143b2	183b9-187a3	168a2-171a3	207b5-211a4	
XXIII	131a1-138a5	109b4-115b3		143b2-151b2	143b2-151b2	187a3-196b6	171a3-180a5	211a4-221b3	1a5-7b3
XXIV	138a5-143b4	115b3-120a4		151b2-157b2	151b2-157b2	196b6-205a7	180a5-187a3	221b3-228a3	
XXV	143b4-148a1	120a4-123b4		157b3-162b2	157b3-162b2	205a7-210a6	187a3-192b2	228a3-234b1	
XXVI	148a1-152b3	123b4-127b5		162a2-170b5	162a2-168a2	210a6-217a2	198b2-198b3	234b4-241b4	
XXVII	152b3-155b3	127b5-130b3		170b5-175a2	168a2-172a6	217a2-222a6	198b4-203b1	241b4-247a6	
XXVIII	155b3-156b4	130b3-131b2	132a1-132b6	175a2-176a6	172a6-173b2	222a6-223b4	203b1-204b6	247a6-248b6	
C	156b4-156b6	131b2-131b6		173b2-173b7	173b2-173b7	223b4-224a3	204b6-205a6	248b6-248b7	177a1-178b1

Table I. (3)

	T2 No. 408	T3 No. 409	T4 No. 410	T5 No. 411	T6 No. 412	T7 No. 413	T8 No. 414	T9 No. 415
S								
I	(4a1)-(9b7)	1b1-2a2	1b1-13b6	1b1-21a5	*0b1-1a2	*	1b1-9a7	1b1-8a11
II	(12a1)-20a6	(2a2)-12b3	13b6-26a4	21a5-41b3	1a3-12a3	(13a1)-23a1	9a7-17a5	8a11-15b5
III	20a6-43b4	12b3-25b1	26a4-41b4	41b3-67a4	12a3-22b5	23a2-37a5	17a5-27a6	15b5-24b3
IV	43b4-39a7	25b1-42a2	41b4-49b6	67a4-80b3	22b5-36a5	37a5-(44b5)	27a6-32b5	24b3-29a8
V	39a7-46a5	42a2-50b7	49b6-58a4	80b3-93b5	36a5-43a4	(46a1)-(50b5)	32b5-37b5	29a8-34b2
VI	46a6-49b7	50b7-61a3	58a5-62b3	93b5-100b4	43a4-50b3	(55a1)-56b1	37b6-40b1	34b2-37a3
VII	49b7-63b4	61a3-65b6	62b3-80a5	100a6-128a2	50b3-54a5	(62a1)-72b3	40b1-51b4	37a3-46b8
VIII	63b5-68b2	65b7-86a6	80a5-86a4	128a2-137a3	54b1-69a3	72b3-78a1	51b4-55a8	46b8-49b9
IX	68b2-71a5	86a6-93b3	86a4-89b3	137a3-142a1	69a3-74a2	78a1-81a4	55a8-57b3	49b9-51b2
X	71a5-75b6	93b3-98a5	89b3-95b1	142a1-150a6	74a3-77a2	81a4-86b3	57b3-61a4	51b2-54a9
XI	75b6-	98a5-105a5	95b1-	150a6-	77a2-81b5	86b3-	61a4-	54a9-
XII	85a7	105a5-	107b3	168a6	81b5-	97a2	68b7	60b3
XIII	85a7-87b3	120a5	107b3-110b1	168b1-172b5	92a3	97a2-99b2	68b7-70b4	60b3-62a2
XIV	87b3-94a1	120a5-124a4	110b1-118a4	172b5-185a5	92a3-94b6	99b2-106b2	70b4-75b3	62a2-66b6
XV	94a1-100a7	124a4-136a3	118a4-125b7	186a6-196b4	94b6-101a2	106b2-113b1	75b3-80a6	66b6-71b6
XVI	100a7-104b4	136a3-146a4	125b7-131a4	196b4-204b3	101a2-107a4	113b1-118b1	80a6-83b1	71b6-75b8
XVII	104b4-110a1	146a4-152b1	131a4-137b6	204b3-213b6	107a4-111b3	118b1-124a3	83b1-87b2	76a1-80a5
XVIII	110a1-113a1	152b1-160b3	137b6-141b2	213b6-219a2	111b3-116b4	124a4-127b1	87b2-89b5	80a5-82b9
XIX	113a1-119b3	160b3-165a4	141b2-149a7	219a3-230a1	116b4-119b3	127b1-134b1	89b5-94a6	82b9-88b5
XX	119b3-122b7	165a4-174b4	149a7-155a2	230a1-236a3	119b3-126a2	134b1-138a5	94a7-97a2	89a1-91b2
XXI	122b7-(123b7)	174b5-180b1	155a2-158a6	236a3-240b1	126a2-129b3	138a5-141a5	97a2-99a4	91b2-93a10
XXII	(126b1)-127b7	180b2-185a4	158a6-161a5	240b1-244a6	129b3-132a5	141a5-(141b5)	99a4-100b8	93a10-94b11
XXIII	127b7-133a4	185a4-189a5	161a5-170a4	244b1-256b1	132a5-134b5	(145a1)-(146b5)	100b8-106a3	94b11-99b7
XXIV	133a4-(137a*7)	201a4-209a7	170a4-176b5	256b1-265a1	134b5-142a2	(154a1)-(155b5)	106a3-109b6	99b7-103b2
XXV	*	209b1-217a2	176b5-182a1	265a1-271b6	*	*	109b6-113a1	103b2-106b9
XXVI	*	217a2-224a2	182a1-187b6	271b6-279b2	*	(162a1)-(165b5)	113a1-116a8	107a1-110b6
XXVII	*	224a2-229b5	187b7-192b2	279b2-285b5	(158a1)-(185b5)	(167a1)-(167b5)	116a8-119a2	110b6-113b2
C	*	229b5-231a6	192b3-193b4	285b5-287b3	*	*	119a2-119b7	113b2-114a6
		231a6-231b6	193b5-194b9	287b3-288a6	*	*	119b7-119b8	114a6-114a9

Table I. (4)

	A1 No. G4079	A2 No. G4199	A3 No. B7	N1 No. 4/21	N2 No. 3/672	N3 No. 5/144	N4	N5=N1α
S								
I	1b1-13b6	1b1-12a6	1b1-9a8	1b1-2a4	(2a1)-2	(*2a1)		
II	13b6-27b5	12a6-23a2	9a8-17b1	2a5-13b5	2a2-11a1	*2a1-9a6		
III	27b5-45b5	23a2-36a2	17b1-27a8	13b5-25b3	11a1-20a1	*9a6-*16b3		
IV	45b5-55a4	36a3-43a1	27a8-32a10	25b3-41b1	20a1-31b4	*16b3-26b3	(IIIa1)-(IIIb4)	
V	55a4-64b1	43a1-50b5	32a10-38a2	41b1-48b5	31b4-36b6	26b3-*32a1		
VI	64b1-69b2	50b5-54b7	38a2-41a2	48b5-56b4	37a1-42b5	*32a1>(*36b6)		
VII	69b2-89b1	54b7-70b2	41a2-52b2	56b4-61a2	42b5-45b6	(38a1)-40a3		
VIII	89b1-96a3	70b2-75b3	52b2-56b5	75b2-81a1	45b6-57b3	40a3-51a4	(Ia1)-(Ib4)	
IX	96a3-100a2	75b3-78b2	56b5-59a1	81a1-84a3	57b3-61b4	51a5-(54b6)		
X	100a2-106a7	78b2-83b2	59a1-62b10	84a3-90b1	61b4-64a2	(56a1)-(56b6)		
XI	106a7-119b6	83b2-99a4	62b10-71a6	90b1-100b2	64a2-68a1	(*59a1)-(*59b6)		
XII	119b6-123a1	99a4-96b4	71a6-73a1	100b2-103a4	68a1-76a3	(66a1)-68a6		
XIII	123a1-132a2	96b4-103b4	73a1-78a4	103a4-110a4	76a3-78a3	68a6-70a4		
XIV	132a2-140b2	103b4-(107b7)	87a4-83b4	110a4-117b3	78a3-83b2	70a4-74b6		
XV	140b2-146b1	* * *	83b4-87a10	117b3-122a3	83b2-88b6	(76a1)-(79b6)		
XVI	146b1-153b5	* * *	87a10-92a2	122a3-128b4	88b6-92b1	(81a1)-(81b6)		
XVII	153b5-158a1	* * *	92a2-94b5	128b4-132a1	92b1-97a3	(85a1)-88a6		
XVIII	158a1-167a2	* * *	94b5-100a7	132a1-139a1	97a3-99b6	88a6-(88b6)		
XIX	167a2-172a7	* * *	100a7-103b3	139a1-143b2	99b6-105b5	(*93a1)-96a1		
XX	172a7-176a5	* * *	103b4-106a1	143b3-146a4	105b5-109a5	96a1-(98b6)		
XXI	176a6-179b2	* * *	106a1-108a1	146a4-148b3	109a5-112b5	(100a1)-101a4		
XXII	179b2-189b1	(108a1)-115b3	108a1-114b3	148b3-156a2	112b5-115a1	101a4-(101b6)		
XXIII	189b1-196a6	115b3-121b3	114b3-118b9	156a2-161b4	115a1-(117b6)	(*104a1)-109a1		
XXIV	196a7-202a3	121b3-126b2	118b10-122b4	161b4-166a4	(121a1)-125a3	109a1-(*112b6)		
XXV	202a3-208b4	126b3-132a3	122b4-126b7	166a4-171b3	125a3-129a4	* * *		
XXVI	208b4-213b6	132a4-136a5	126b7-130a2	171b3-175b3	129a5-133b4	(*118a1)-*120b4		
XXVII	213b6-215a6	136a5-137a7	130a2-130b9	175b3-176b5	133b4-137a2	*120b4-(*120b6)		
C	215a6-215b7	137a7-137b7	130b9-131a4	176b5	137a2-138b1	* * *	(IVa1)-(IVb4)	177a1-178b1

Table I. (5)

	D1 Serial No.45	D2 Serial No.s44,47,49	D3 Serial No.48	D4 Hinüber	D5=D2 Serial No.50	O	F
S						S	
I	1a1-12b2	(5a1)-(*7b8)	(*a1)-(*a7)	*		I	(3a1)-6b4
II	12b2-(24a5)	(11a1)-19b6	(*a8)-(*26a3)	*		II	6b4-36a1
III	(24a7)-*39a1	19b6-31b3	*26a3-(40b11)	*		III	36a1-64a7
IV	*39a1-46b6	31b3-(35b9)	*	(45a1)-47b6		IV	64a7-101b6
V	46b6-54b3	*	*	47b6-56b2		V	101b6-121a6
VI	54b3-58a7	*	*	56b2-65a4		VI	121a6-140a7
VII	58a7-74a8	*	*	65a4-69b1		VII	140a7-150a5
VIII	74a8-(75b8)	*	*	69b1-(74b8)		VIII	150a6-189b4
IX	*	*	*	*		IX	189b4-203a7
X	*	(65a1)-65a9	(*95a1)-(*96b7)	*	(65a7)-65a9	X	203b1-211a7
XI	*	65a9-	(*96b7)-	*	65a9-(65b6)	XI	211b1-226a6
XII	*	*73a2	(*103b11)	*		XII	226a7-246a4
XIII	*	*73a2-*75a1	(*112a1)-*112b7	*		XIII	246a5-255b7
XIV	*	*75a1-(77b9)	*112b8-120b11	*		XIV	256a1-262b7
XV	(109a1)-115a2	*	(124a1)-*127b9	*		XV	263a1-283a2
XVI	115a2-120a1	*	(*127b9)-(*134b11)	*		XVI	283a2-302b2
XVII	120a1-125b6	(91a1)-(91b2)	(*a1)-*b5	*		XVII	302b2-(311b7)
XVIII	125b6-128a1	(91b3)-92b3	*a5-*a10	*		XVIII	(321a1)-(331a1)
XIX	128a1-135a8	93b4-*97b9	*a11-*a11	*		XIX	331a2-340b4
XX	135a8-139b3	*97b9-*100b2	*a11-(b11)	*	(98a3)-(98b8)	XX	340b4-360b3
XXI	139b3-142b5	*100b2-102a10	*	*		XXI	360b3-*371b6
XXII	142b6-145a6	*102a10-(103b10)	*	*		XXII	371b6-*380b2
XXIII	145a6-153a8	(*a2)-(*b10)	*	*		XXIII	380b2-*387b1
XXIV	153a8-(153b8)	*	(*a1)-(*a9)	*		XXIV	*387b1-407b2
XXV	*	(114a1)-115b1	(*a9)-(*b11)	*		XV	407b2-*421a2
XXVI	(166a1)-169a5	(*118a1)-*118a4	*	*		XVI	*421a3-*432b2
XXVII	169a5-173a2	*118a4-(118b10)	(*a1)-(b9)	*		XVII	*432b2-*445a1
C	173a2-(173b8)	*	(*b9)-(*a4)	*		XVIII	*445a1-445b7
	(*a1-*a8, b1-*b8, *a1-*a8, *b1-*b8, *a1-*a3)		*a4-*b9	*		XIX	*455b7-*459b2
				*		C	*459b2-*459b9

Table II. Reference of the Editions of Gilgit (Kashmir) MSS. (1)

D1			D2			D3		D4		D5	
RL No.	W No.	fol. No.	Kn	RL No.	W No.	fol. No.	Kn	fol. No.	Kn	RL No.	Kn
Serial 45											
2813	1	1a I	1.5-2.9								
2814	2	1b	2.10-3.10								
2815	3	2a	3.10-4.12								
2816	4	2b	4.12-5.11								
2817	5	3a	5.11-6.13								
2818	6	3b	6.13-8.2								
2819	7	*4a	8.2-9.7								
2820	8	*4b	9.8-11.2								
2821	9	5a	11.3-12.10								
2822	10	5b	12.10-13.5	Serial 47							
2823	11	6a	13.5-15.5	3503	247	5a I	13.18-16.4				
2824	12	6b	15.5-16.12	3054	248	5b	16.4-17.14				
2825	13	7a	16.11-17.14								
2826	14	7b	17.14-19.1								
2827	16	8a	19.1-20.1	Serial 47							
2828	18	8b	20.1-20.16	3055	249	*7a	20.12-21.13				
				3056	250	*7b	21.14-22.12				
2829	19	10a	22.12-23.16								
2830	20	10b	23.16-25.3								
2831	21	11a	25.3-26.4								
2832	22	11b	26.4-27.8								
2833	23	12a	27.8-28.10								
2834	24	12b II	28.10-29.10								
2835	25	13a	29.10-31.2								
2836	26	13b	31.2-32.13	Serial 47							
2837	27	14a	32.13-34.1	3057	251	11a II	32.13-34.3				
2838	28	14b	34.1-35.10	3058	252	11b	34.4-36.2				
								Serial 48			
								3121	*a I-II	28.2-29.5	
								3122	*b	29.6-30.10	
								3123	*a	30.12-32.4	
								3124	*b	32.5-33.7	

Table II. (2)

D1		D2		D3		D4		D5	
Serial 45									
2839	15a	35.10-37.2							
2840	15b	37.2-38.9							
2841	16a	38.9-39.11							
2842	16b	39.11-40.12							
2843	17a	40.12-41.10	Serial 47						
2844	*17b	41.11-42.4	3059	14a	41.6-42.4				
2845	*18a	42.4-42.18	3060	14b	42.4-43.4				
2846	*18b	42.18-43.14	3061	15a	43.4-44.7	Serial 48			
			3062	15b	44.7-46.5	3125	*21a	46.2-47.6	
			3063	16a	46.6-48.2	3126	*21b	47.7-48.10	
			3064	16b	48.2-49.13	3127	*22a	48.10-49.13	
			3065	17a	49.13-51.7	3128	*22b	49.13-51.1	
			3066	17b	51.7-53.7	3129	*23a	51.2-52.5	
			3067	18a	53.7-54.14	3130	*23b	52.6-53.11	
			3068	18b	54.14-56.11	3131	*24a	53.12-54.1	
						3132	*24b	54.2-55.8	
						3133	*25a	55.8-56.13	
Serial 45			3069	19a	56.11-58.5	3134	*25b	56.13-59.2	
2847	24a	58.7-60.3	3070	19b	58.5-60.7	3135	*26a	59.2-60.10	
2848	24b	60.4-61.4	3071	20a	60.7-61.12	3136	*26b	60.11-61.11	
			3072	20b	61.12-63.8	3137	*27a	61.11-63.1	
			3073	21a	63.8-65.3	3138	*27b	63.2-64.7	
			3074	21b	65.3-66.8	3139	*28a	64.7-65.5	
			3075	22a	66.8-68.1	3140	*28b	65.5-66.6	
			3076	22b	68.1-69.11	3141	*29a	66.6-67.7	
						3142	*29b	67.7-68.9	
			3077	23a	69.11-71.4	3143	*30a	68.9-69.13	
			3078	23b	71.4-72.13	3144	*30b	69.13-71.3	
Serial 45						3145	31a	71.3-72.7	
2849	29a	72.7-73.7				3146	31b	72.7-73.6	

Table II. (3)

D1		D2			D3		D4		D5	
Serial 45					Serial 48					
2850	42	29b	73.7-74.8		3147	*32a	73.6-74.4			
2851	43	30a	74.8-75.11		3148	*32b	74.4-75.6			
2852	44	30b	75.11-77.1		3149	*33a	75.6-76.9			
2853	45	31a	77.2-77.15		3150	*33b	76.7-77.6			
2854	46	31b	77.15-79.1		3151	*34a	77.6-78.4			
					3152	*34b	78.4-79.3			
2855	47	32a	79.1-80.3		3153	*35a	79.3-80.4			
2856	48	32b	80.2-81.6	Serial 47	3154	*35b	80.4-81.7			
2857	49	33a	81.6-82.7	3079	273	27a	81.5-82.9			
2858	50	33b	82.7-83.13	3080	274	27b	82.10-84.11			
2859	51	34a	83.13-85.5	3081	275	28a	84.11-86.9			
2860	52	34b	85.5-86.12		3155	36a	81.7-82.5			
2861	53	35a	86.12-88.5	3082	276	28b	86.10-88.11			
2862	54	35b	88.5-89.13	3083	277	29a	88.11-90.11			
2863	55	36a	89.13-91.6		3156	36b	82.5-83.7			
2864	56	36b	91.7-92.14	3084	278	29b	90.11-92.14			
				3085	279	30a	92.14-94.13			
Serial 45				3086	280	30b	94.13-96.15	*45a	91.12-92.12	
2865	57	*38a	86.15-97.10	3087	281	31a	96.15-98.11	*45b	92.14-94.2	
2866	58	*38b	97.12-98.12		3064	*40b	93.4-94.8	*46a	94.8-95.9	
2867	59	*39a	99.7-101.1	3088	282	31b	98.11-101.1	*46b	95.11-96.12	
2868	60	*39b	101.1-102.2					*47a	97.3-98.4	
2869	61	40a	102.2-103.1	3089	283	32a	101.1-102.9	*47b	98.7-100.4	
2870	62	40b	103.2-103.16	3090	284	32b	102.9-103.13	*48a	100.7-101.6	
2871	63	41a	104.1-105.4	3091	285	33a	103.13-105.6	*48b	101.7-102.5	
2872	64	41b	105.6-106.4	3092	286	33b	105.6-106.11	*49a	102.10-103.5	
2873	65	42a	106.5-107.5		3093	34a	106.11-106.2	*49b	103.6-104.1	
2874	66	42b	107.5-108.8					*50a	104.5-105.5	
								*50b	105.5-106.7	
								*51a	106.7-107.4	

Table II. (4)

D1		D2			D3		D4		D5	
Serial 45	67	43a	108.8-109.7	Serial 47	288	34b	108.2-109.4			
2875	68	43b	109.7-110.13	3094	289	35a	109.4-110.14	*51b	107.4-108.5	
2876	69	44a	110.13-112.6	3095	290	35b	110.14-113.1	*52a	108.7-109.2	
2877	70	44b	112.6-114.1	3096				*52b	109.2-110.6	
2878	71	45a	114.1-115.8					*53a	110.6-111.7	
2880	72	45b	115.9-117.7					*53b	111.8-112.10	
2881	73	46a	117.7-119.5					*54a	112.12-114.2	
2882	74	46b V	119.5-121.4					*54b	114.2-115.7	
2883	75	47a	121.4-122.6					*55a	115.9-117.2	
2884	76	47b	122.6-123.10					*55b	117.2-118.11	
2885	77	48a	123.10-125.1					*56a	118.13-120.6	
2886	78	48b	125.1-127.1					*56b V	120.6-121.11	
2887	79	49a	127.2-128.11					*57a	121.11-122.11	
2888	80	49b	128.11-130.4					*57b	122.11-123.13	
2889	81	50a	130.4-131.11					*58a	123.14-125.2	
2890	82	50b	131.11-132.12					*58b	125.2-126.13	
2891	83	51a	132.12-133.14					59a	126.14-128.8	
2892	84	51b	133.14-134.15					59b	128.8-130.1	
2893	85	52a	134.15-136.1					60a	130.1-131.6	
2894	86	52b	136.1-137.5					60b	131.6-132.5	
2895	87	53a	137.5-138.13					61a	132.6-133.6	
2896	88	53b	138.13-140.11					61b	133.6-134.5	
2897	89	54a	140.11-142.14					62a	134.5-135.4	
2898	90	54b VI	142.14-145.1					62b	135.4-136.4	
2899	91	55a	145.1-146.9					63a	136.4-137.6	
2900	92	55b	146.9-148.11					63b	137.6-138.12	
2901	93	56a	148.11-150.3					64a	138.15-140.11	
2902	94	56b	150.3-151.10					64b	140.11-142.13	
2903	95	57a	151.10-153.3					*65a VI	142.13-144.9	
								*65b	144.9-146.5	

Table II. (7)

D1		D2			D3			D4	D5		
Serial 45	2939	133	109a	XIV	298.12-299.15						
	2940	134	109b		299.15-300.15						
2941	135	110a			300.11-301.10						
	2942	136	110b		301.10-303.1						
2943	137	111a			303.1-305.4						
	2944	138	111b		305.5-307.2						
2945	139	112a			307.2-308.3						
	2946	140	112b		308.3-309.7						
2947	141	113a			309.7-310.11						
2948	142	113b			310.11-311.11						
2949	143	114a			311.11-312.12						
Serial 47	305	*73a	XII		266.1-268.4						
	306	*73b			268.5-269.12						
	307	*74a			269.12-271.7						
	308	*74b			271.7-274.8						
	309	*75a	XIII		274.9-276.7				272.6-273.12		
	310	*75b			276.7-278.5	Serial 48			XIII 273.12-275.4		
	311	*76a			278.6-281.3	3171	115a		280.7-282.5		
	312	*76b			281.3-282.13	3172	115b		282.6-283.8		
	313	*77a			282.13-284.8	3173	116a		283.8-284.12		
	314	*77b			284.8-286.5	3174	116b		284.12-286.3		
	Serial 48	3181-3189	3175	117a			3175	117a		286.3-287.6	
			3176	117b			3176	117b		287.6-288.8	
			3177	118a			3177	118a		288.8-289.9	
			3178	118b			3178	118b		289.9-290.8	
			3179	119a			3179	119a		290.8-291.10	
			3180	119b			3180	119b		291.10-292.15	
			3181	120a			3181	120a		292.16-294.8	
			3182	120b			3182	120b		294.8-296.1	
Serial 49			3183-3189	3183	124a			3183	124a		304.9-306.9
				3184	124b			3184	124b		306.10-307.13
	3185	125a				3185	125a		307.14-309.2		
	3186	125b				3186	125b		309.2-310.4		
	3187	126a				3187	126a		310.4-311.5		
	3188	126b				3188	126b		311.6-312.5		
	3189	*127a				3189	*127a		312.5-313.5		

Table II. (8)

D1		D2		D3		D4		D5	
Serial 45					Serial 48				
2950	144	114b	312.12-313.16		3190	*127b XV	313.6-315.4		
2951	145	115a XV	314.1-315.11		3192	128a	315.4-316.5		
2952	146	115b	315.11-317.2		3191	128b	316.6-317.8		
2953	147	116a	317.2-318.2						
2954	148	116b	318.2-319.2						
2955	149	117a	319.2-320.3						
2956	150	117b	320.3-321.6		Serial 48				
2957	151	118a	321.6-322.7		3193	*134a	321.8-322.9		
2958	152	118b	322.7-323.11		3194	*134b	322.9-323.12		
2959	153	119a	323.11-325.3						
2960	154	119b	325.4-326.11						
2961	155	120a	326.12-328.2						
2962	156	120b	328.2-329.4						
2963	157	121a	329.4-330.10						
2964	158	121b	330.10-332.6		Serial 48				
2965	159	122a	332.6-334.1		3195	*a XVI	331.5-332.10		
2966	160	122b	334.1-336.4		3196	*b	332.10-334.6		
2967	161	123a	336.4-337.12		3197	*a	334.8-336.5		
2968	162	123b	337.12-338.13		3198	*b	336.6-337.11		
2969	163	124a	338.13-339.14	Serial 44					
2970	164	124b	339.14-340.15	2789	315	91a	340.11-343.14		
2971	165	125a	340.15-343.4	2790	316	91b	344.2-346.10		
2972	166	125b	343.4-345.7	2791	317, 318	92a XVII	346.11-348.11		
2973	167	126a	345.7-346.10	2792	319, 320	92b	348.11-350.9		
2974	168	126b	346.10-348.12						
2975	169	127a	348.2-349.5						
2976	170	127b	349.5-350.8	Serial 44					
2977	171, 172	128a	350.8-351.10	2793	321, 322	93a	350.9-352.13		
2978	173, 174	128b	351.10-353.5	2794	323, 324	93b XVIII	352.13-356.3		
					Serial 48				
					3203	*a	352.6-354.2		
					3204	*b XVIII	354.2-355.2		

Table II. (9)

D1		D2			D3		D4		D5	
Serial 45										
2979	175,176	353.6-355.6	Serial 44	94a	356.3-358.13	Serial 48				
2980	177,178	355.6-357.4	2795	325,326	358.13-361.2	Serial 48				
2981	179	357.4-358.10	2796	327,328		3205	*a	358.4-359.7		
2982	180	358.10-360.1				3206	*b	359.7-360.9		
2983	181	360.1-361.1	Serial 44			3207	*a	360.10-361.9		
2984	182	361.1-362.3	2797	329,330	361.2-363.2	3208	*b	361.10-362.13		
2985	183	362.3-363.9	2798	331,332	363.3-365.9	3209	*a	362.14-364.3		
2986	184	363.9-364.16				3210	*b	364.3-365.7		
2987	185	364.16-366.7								
2988	186	366.7-367.14								
2989	187	367.14-368.13								
2990	188	368.13-370.3	Serial 44							
2991	189	370.3-371.8	2799	333	370.3-372.7	Serial 48				
2992	190	371.8-373.4	2800	334	372.7-375.3	3211	*a	XIX 373.4-375.1		
2993	191	373.4-374.9	2801	335	375.4-376.10	3212	*b	375.1-376.4		
2994	192	375.1-376.6	2802	336	76.11-378.7					
2995	193	376.7-377.9	Serial 49			3213	*a	378.8-379.7		*a 375.9-376.10
2996	194	377.9-378.10	3217		378.7-380.11	3214	*b	379.4-380.7		*b 376.12-378.3
2997	195,196	378.11-379.10	3218		380.11-383.3					
2998	197,198	379.11-381.2								
2999	199	381.2-382.3	Serial 44			3215	*a	381.1-381.11		
3000	200	382.3-383.5	2803	337	383.3-385.4	3216	*b	381.11-382.8		
3001	201	383.5-385.2	2804	338	385.5-387.9					
3002	202	385.2-386.10	2805	339	387.10-389.9					
3003	203	386.10-388.3	2806	340	389.10-392.4					
3004	204	388.3-389.4								
3005	205	389.4-390.8								
3006	206	390.8-391.10	Serial 44							
3007	207	391.10-393.7	2807	341	392.5-395.2					

1995-1998

Table III. Reference of the Editions of MS. "O" (1)

SMSE, Toda's ed. folio No.	Petrovsky Coll. Lokesh Chandra's ed.	Hoernle Coll.	Stein Coll.	Trinkler Coll.	Huntington Frag. Othani Coll.	Honda's ed.	Kn
[1-2 missing]							
3a - 58a	3A - 58A						1.1 - 51.14
58b	59B						51.14; 53.4-53.13
59a	60A						53.13- 54.7
59b	58A						54.7; 52.1-52.8
60a	59A						52.9 - 53.4
60b - 138b	60B - 138B					= 41 - 48	54.7 - 141.3
139a - 142b	139A - 142B						141.3 - 146.13
143a - 243b	143A - 243B						146.13- 252.14
244a, b				Mainz 688			252.14- 254.8
245a, b				685		= 23 - 24	254.8 - 256.2
246a, b				706		= 25 - 26	256.2 - 257.2
247a, b				717		= 27 - 28	257.2 - 258.4
248a, b				686		= 29 - 30	258.4 - 259.6
249a, b				687		= 31 - 32	259.6 - 260.4
250a, b				689		= 33 - 34	260.4 - 261.1
251a, b				705		= 35 - 36	261.1 - 263.4
252a, b				715		= 37 - 38	263.4 - 264.10;
						= 39 - 40	264.10 - 266.4
253a - 254b		148.SA.22-23					266.4 - 269.7
*255a	434B - I					= 41 - 44	269.7 - 271.3
*255b	434B - II						271.3 - 294.10
256a - 258b							294.10- 296.3
259a - 260b			Or. 9613 (1)				296.3 - 322.8
261a - 281b	261A - 281B	148.SA.24-25					
282a, b							
283a - 311b	283A - 311B		Or. 9613 (2)		+ Ht F		
[312-320 missing]							

Table III. (2)

SMSR, Toda's ed. folio No.	Petrovsky Coll. Lokesh Chandra's ed.	Hoernle Coll.	Stein Coll.	Trinkler Coll.	Huntington Frag. Otani Coll.	Honda's ed.	Kn
321a - 326b	321A - 326B		Or. 9613 (3)			= 133 - 176	332.9 - 339.7
327a - 348b							339.7 - 362.3
349a - 359b	349A - 359B		Or. 9613 (4)			= 183 - 184	362.3 - 373.11
360a, b							373.12 - 375.4
361a - 365b	361A - 365B						375.4 - 380.1
*366a	357A - II, I						380.2 - 380.6
*366b	357B - II, I						380.6 - 380.10
*367a - *372b	358A - 363B		Or. 9613 (5)		+ Ot D	= 189 - 200	380.11 - 387.3
*373a, b	364B, A					= 201 - 202	387.4 - 388.2
*374a	434A - II, 435B - II						388.2 - 388.6
*374b	434A - I, 435B - I						388.6 - 388.12
375a - 378b	375A - 378B						388.12 - 392.2
[379 missing]							
380a, b			Or. 9613 (6)			= 203 - 204	393.10 - 395.5
381a, b	370A, B					= 205 - 206	395.7 - 396.4
*382a, b	282B, A, 371A, B		Or. 9613 (6)			= 207 - 208	396.4 - 397.9
*383a, b	372A, B					= 209 - 210	397.9 - 399.4
*384a, b	373A, B		Or. 9613 (6)			= 211 - 212	399.4 - 400.8
*385a, b	374A - I, II						400.10 - 402.5
*386a, b	374A - III, B - I						402.7 - 403.3
*387a, b	374B - II, III						403.4 - 404.6
*388a, b	375A - I, III						404.7 - 405.5
*389a, b	375B - I, 435A - I						405.4 -
	375B - II						405.13
*390a, b	375B - II, 435A - II						405.14 - 406.8
*391a, b	376A - II, B - I						406.8 - 407.8
*392a, b	376B - II, 377A						407.8 - 408.5
*393a, b	377A - I, II						408.7 - 409.5
*394a, b	378A - I, II						409.6 - 410.5

Table III. (3)

SMSR, Toda's ed. folio No.	Petrovsky Coll. Lokesh Chandra's ed.	Hoernle Coll.	Stein Coll.	Trinkler Coll.	Huntington Frag. Otani Coll.	Honda's ed.	Kn
*395a, b	378B - I, II						410.6 - 411.5
*396a, b	431A - I, 379A - I						411.6 - 412.6
*397a, b	431A - II, 433A - II						412.7 - 413.2
*398a, b	379A - II, 379B - I						413.3 - 414.2
*399a, b	379B - II, 380A - I						414.2 - 414.13
*400a, b	380A - II, 380B - I						415.1 - 416.1
*401a, b	380B - II, 381A - I						416.2 - 416.13
*402a, b	381A - II, 381B - I						416.14 - 417.10
*403a, b	381B - II, 382A - I						417.11 - 418.8
*404a, b	382A - II, 383A - I						418.9 - 419.11
*405a, b	382B, 432A - II						420.1 - 420.12
*406a, b	383A - II, 431B - II						420.13 - 421.9
*407a, b	383B - I, II						421.10 - 423.5
*408a, b	431B - I, 433A - I						423.6 - 424.5
*409a, b	376A - I, 432A - I						424.6 - 425.8
*410a, b	432B - II, I						425.9 - 426.8
*411a, b	375B - I, 435A - I						426.9 - 427.7
*412a, b	484A, 433B						427.8 - 428.1
*413a, b	384B, 385A						428.2 - 428.12
*414a, b	385B, 386A						428.13 - 430.3
*415a, b	386B, 387A						430.3 - 431.4
*416a, b	387B, 388A						431.5 - 432.7
*417a, b	388B, 389A						432.7 - 433.9
*418a, b	389B, 390A						433.9 - 434.10
*419a, b	390B, 391A						435.1 - 435.13
*420a, b	391B, 392A						435.14 - 437.3
*421a, b	392B, 393A, 368A (fr.)						437.3 - 439.1
*422a, b	393B, 394A						439.2 - 440.4
*423a, b	394B, 395A						440.4 - 441.6

TABLE III. (3)

Table III. (4)

SMSR, Toda's ed. folio No.	Petrovsky Coll. Lokesh Chandra's ed.	Hoernle Coll.	Steni Coll.	Trinkler Coll.	Huntington Frag. Otani Coll.	Honda's ed.	Kn
*424a, b	395B, 396A						441.7 - 442.5
*425a, b	396B, 397A						442.6 - 443.9
*426a, b	397B, 398A						444.1 - 445.1
*427a, b	398B, 399A						445.1 - 446.4
*428a, b	399B, 400A						446.4 - 448.1
*429a, b	400B, 401A						448.2 - 450.5
*430a, b	401B, 402A						450.6 - 452.9
*431a, b	402B, 403A, 368B (fr.)						453.2 - 456.2
*432a, b	403B, 404A						456.2 - 457.6
*433a, b	404B, 405A						457.7 - 458.7
*434a, b	405B, 406A						458.7 - 459.9
*435a, b	406B, 407A						459.11 - 461.2
*436a, b	407B, 408A						461.3 - 462.8
*437a, b	408B, 409A						462.9 - 464.2
*438a, b	409B, 410A						464.2 - 464.13
*439a, b	410B, 411A						464.14 - 465.10
*440a, b	411B, 412A						466.1 - 466.12
*441a, b	412B, 413A						466.12 - 468.1
*442a, b	413B, 414A						468.1 - 469.2
*443a, b	414B, 415A						469.3 - 470.3
*444a, b	415B, 416A						470.4 - 471.2
*445a, b	435A - II						471.6 - 472.5
*446a, b	417A, B						472.7 - 473.10?
*447a, b	418A, B		Or. 9613 (7)			= 223 - 224	473.13 - 474.9
*448a - *449b	419A - 420B						474.9 - 476.9
*450a - *452b	421A - 423B						476.9 - 480.5
*453a, b	424A, B						480.5 - 481.5
*454a, b	425A, B						481.6 - 482.5
*455a - *459b	426A - 430B						482.6 - 487.7

Table IV. Reference of the Editions of Central Asian MS. Fragments. (1)

Kn	F1	F2	F3	F4	F5	F6
Chap.	Petrovsky Coll.	Stein Coll.	Stein & Le Coq Coll.	India Office Library Stein & Hoernle Coll.	India Office Library Fragments	Miscellaneous MSS. Fragments
I	1.5 - 2.11 ; SI P/8 fol.4 2.5 - 3.1 ; SI P/11(1) fol.6 3.1 - 3.7 ; SI P/11(1) fol.7 3.7 - 4.1 ; SI P/11(1) fol.8 4.1 - 10 ; SI P/11(1) fol.9 4.10 - 5.2 ; SI P/11(1) fol.10 5.2 - 9 ; SI P/11(1) fol.11 12.9 - 15 ; SI P/9 fr.19 16.5 - 18.8 ; SI P/90bl fr.1 21.11 - 19 ; SI P/11(1) fr.4 22.1 - 7 ; SI P/11(1) fr.2	12.15 - 21.1 ; Kha. i. 24, 33, 35, 36 ; H3 - 6	1.8 - 2.8 ; Kha. 0013, b(1) ; H1 - 2 12.15 - 14.2 ; Dawoko 0124. 21.18 - 22.9 ; Kha. ix, 23 ; fol. 212 ; H7 - 8	6.1 - 6.2 ; Kha. ix, 32 ; fol. 77 7.3 - 7.11 ; Kha. i. 215.b, 216, 217 ; fol. 66 12.15 - 14.2 ; fol. 83 18.2 - 19.2 ; fol. 83 22.2 - 22.5 ; Kha. ix, 16, a, b, (4) ; fol. 75 22.2 - 22.14 ; Kha. i, 92, b ; fol. 51 ; H237 - 238 24.15 - 25.11 ; Kha. ix, 36(1) ; fol. 78 ; H239 - 240 27.2 - 28.1 ; fol. 161	6.7 - 6.9 ; fol. 171 6.9 - 7.3 ; fol. 176 24.2 - 24.9 ; fol. 171 24.11 - 25.22 ; fol. 176 28.12 - 29.4 (II) ; fol. 173	
II	37.7 - 38.8 ; SI P/11(1) fol.57 39.11 - 40.6 SI P/11(1) ; fol.60		29.9 - 31.13 ; Kha. 0014, b ; H9 - 10 30.3 - 31.5 ; Kha. i, 214, b ; fol. 65 ; H11 - 12	29.2 - 29.9 ; fol. 161 43.6 - 43.14 ; fol. 161	40.16 - 41.4 ; fol. 172 42.3 - 42.14 ; fol. 174	

Table IV. (2)

Kn	F1	F2	F3	F4	F5	F6
III	70.13 - 71.6 ; SI P/11(1) fol.105 88.1 - 89.1 ; SI P/11(1) fr.3		52.12 - 54.1 ; Kha. i. 102, fol. 53 ; HI3 - 14 55.14 - 57.4 ; Kha. i. 134, b. fol. 57 ; HI5 - 16 56.12 - 58.14 ; Kha. i. 174, c. fol. 59 ; HI7 - 18 57.12 - 59.2 ; T. 4, Chotain 8. ; H277 - 278	78.5 - 78.13 ; fols. 79, 78, 77 78.14 - 79.6 ; fols. 78, 77 83.9 - 84.8 ; fol. 76	63.12 - 64.14 ; fol. 174 82.9 - 83.2 ; fol. 172 87.4 - 88.8 ; fol. 173 97.6 - 98.10 ; fol. 172	
IV	100.2 - 9 ; SI P/11(1) fol.147 100.9 - 101.13 ; SI P/11(1) fol.149 101.13 - 102.5 ; SI P/11(1) fol.150 102.5 - 12 ; SI P/11(1) fol.151 102.12 - 103.4 ; SI P/11(1) fol.152 103.5 - 12 ; SI P/11(1) fol.153 105.10 - 107.9 ; SI P/90a fol.40				100.6 - 101.5 ; fol. 173 103.1 - 103.12 ; fol. 172 118.5 - 118.13 ; fol. 172	

Table IV. (3)

Kn	F1	F2	F3	F4	F5	F6
V	143.3 - 144.4 (VI) ; SI P/11(1) fol.240			128.14 - 129.10 ; fol. 76	121.1 - 121.12 ; fol. 171	
VI	154.13 - 156.4 (VII) ; SI P/12+13 fol.146		147.7 - 148.8 ; Kha. ix. 22 ; fol. 75 147.13 - 148.6 ; Kha. ix. 28 ; fol. 76 ; H 241 - 242	144.10 - 146.4 ; fol. 175 145.1 - 146.5 ; fol. 173 148.1 - 148.12 ; fol. 172 150.8 - 151.4 ; fol. 175	145.7 - 146.13 ; Petrovsky SI P/62A, 148.4 - 149.3 ; Waldschmidt's Nr. 622	
VII	165.11 - 166.7 ; SI P/9 fol.183? 167.11 - 168.1 ; SI P/9 fol.186 172.8 - 173.2 SI P/9 fr.18 173.12 - 174.9 SI P/11(1) fol.316 183.5 - 184.1 ; SI P/11 fol.248 184.1 - 11 ; SI P/11 fol.249 184.11 - 185.7 ; SI P/11 fol.250 185.7 - 186.5 ; SI P/11 fol.251 186.5 - 187.1 ; SI P/11 fol.25(2) 197.12-199.2(VIII) ; SI P/7 fr.		181.1 - 182.13 ; fol. 175 188.7 - 189.3 ; fol. 161	165.10 - 166.8 ; fol. 175 166.14 - 167.11 ; fol. 176 171.6 - 171.10 ; fol. 173 174.11 - 175.13 ; fol.171 189.2 - 189.13 ; fol. 173 189.2 - 190.2 ; fol. 173 189.2 - 190.2 ; fol. 171 190.2 - 191.4 ; fol. 171 191.6 - 193.2 ; fol. 171 193.2 - 194.9 ; fol. 171		

Table IV. (4)

Kn	F1	F2	F3	F4	F5	F6
VIII	204.12 - 205.13 ; SI P/9 fol.23(11) 205.13 - 206.9 ; SI P/9 fol.232 206.10 - 207.9 ; SI P/9 fol.233 207.10 - 208.11 ; SI P/9 fol.(234)			203.4 - 204.10 ; Kha. ix 24(2) ; fol. 76 ; H 243 - 244 214.5 - 215.1 (-IX) ; Kha. vi. 12.13 ; fol. 71	194.10 - 196.8 ; fol. 171	
IX	221.5 - 222.4 ; SI P/9 fol.248					
X	237.4 - 239.3 (XI) ; SI P/10 fol.287		224.3 - 225.8 ; Kha. i. 186 ; fol. 61 ; H 19 - 20 225.11 - 226.10 ; fol. 61 ; Kha. i. 185. c ; H 21 - 22		237.6 - 237.11 ; fol. 175	
XI	242.11 - 243.9 ; PI P/10 fr. 244.4 - 245.10 ; SI P/10 fol.295 245.10 - 246.4 ; SI P/10 fol.296 246.2 - 11 ; SI P/9 fol.289 246.6 - 247.7 ; SI P/10 fol.297		261.3 - 262.5 ; Kha. 0013. b ; H 245 - 246	242.8 - 243.7 ; fol. 157	242.7 - 242.10 ; fol. 173 245.1 - 245.8 ; fol. 175 245.10 - 246.1 ; fol. 175 248.4 - 249.3 ; fol. 176	

Table IV. (5)

Kn	F1	F2	F3	F4	F5	F6
	247.7 - 248.3 ; SI P/10 fol.298 248.3 - 13; SI P/10 fol.299 248.13 - 249.11 ; SI P/10 fol.300 249.11 - 250.11 ; SI P/10 fol.301 250.11 - 251.12 ; SI P/10 fol.302 251.12 - 253.8 ; SI P/10 fol.303 253.8 - 255.5 ; SI P/10 fol.304 256.10 - 257.11 ; SI P/10 fol.306 264.15 - 265.9 ; SI P/9 fol.311					
XII	268.10 - 269.10 ; SI P/10 fol.316 274.5 - 275.10 (XIII); SI P/10 fol.(320)					
XIII	275.10 - 276.6 ; SI P/9 fol.(3)23 275.10 - 276.10 ; SI P/10 fol.3(21) 279.10 - 281.12 ; SI P/10 fol.324				286.13 - 288.4 ; fol. 172 286.12 - 288.4 ; fol. 175 290.3 - 291.1 ; fol. 172 292.10 - 294.4 ; fol. 175	

Table IV. (6)

Kn	F1	F2	F3	F4	F5	F6
XIV	310.8 - 311.3 ; SI P/9 fol.36(?)3			299.7 - 299.13 ; Kha. i. 223. b; fol. 67	299.13 - 300.7 ; fol. 172 308.4 - 309.8 ; fol. 175 308.5 - 309.8 ; fol. 172	
XV		319.5 - 321.9 ; Kha. 0011 ; fol. 40 ; H 57 - 58	320.11 - 321.10 Kha. ix. 16, a ; fol. 74 ; H 59 - 60 321.10 - 322.7 ; Kha. ix. 16, a ; fol. 73 ; H 61 - 62	319.3 - 319.7 ; Kha. ix. 16aa, b; fols. 73 ; H 247 - 248 320.1 - 320.7 ; Kha. i. 23 ; fol. 44 320.10 - 321.9 ; Kha. i. 28 ; fol. 44	318.15 - 320.1 ; fol. 174	326.10 - 329.4 (XVI) ; Boernle Mss. 142. SB.53.
XVI	328.2 - 12 ; SI P/9 fol.385 328.12 - 329.5 ; SI P/9 fol.386					330.5 - 331.8 (XV - XVI) ; fol. 76 ; H 63 - 64
XVII			347.1 - 347.11 ; Kha. ix. 18. ; fol. 75 ; H 177 - 178 348.6 - 349.8 ; Kha. ix. 42. (1) ; fol. 82 ; H 179 - 180	347.4 - 347.10 ; fol. 79 347.12 - 348.9 ; Kha. ix. 36 ; fol. 78 ; Kha. ix. 32 ; fol. 77 ; H 251 - 252	347.13 - 348.7 ; fol. 174 350.16 - 352.7 ; fol. 176	
XVIII	357.1 - 358.10 ; SI P/8 fr.		361.13 - 364.12 ; Kha. ix. 1,3 ; fol. 84 ; H 181 - 182	360.2 - 360.6 ; Kha. ix. 1,3 ; fol. 84 ; H 254 - 253 360.13 - 361.3 ; Kha. ix. 1,3 ; fol. 84 ; H 255 - 256	362.13 - 364.7 ; fol. 173	

Table IV. (7)

Kn	F1	F2	F3	F4	F5	F6
				367.1 - 367.12 ; Kha. ix. 42(2) ; fol. 79 ; H 257 - 258 367.12 - 368.1 ; Kha. ix. 36 ; fol. 78		
XIX			383.8 - 386.3 (XX) ; Kha. i. 311. a ; fol. 68 ; H 187 - 188	377.6 - 378.6 ; Kha. ix. 42(3) ; fols. 83,81 ; H 185 - 186 378.6 - 379.3 ; Kha. i. 42(4) ; fols. 83,81 H 259 - 260 379.3 - 379.13 ; Kha. i. 42(5) ; fols. 75,80 ; H 261 - 262 380.1 - 380.10 ; Kha. i. 42(6) fols. 80,84 ; H 263 - 264 380.3 - 380.12 ; Kha. i. 317 b ; fol. 69 ; H 265 - 266 380.11 - 381.10 ; Kha. i. 42(7 - 8) ; fols. 81, 84, 81 ; H 269 - 270 381.1 - 381.8 ; Kha. i. 317. b ; fol. 69 ; H 267 - 268		387.8 - 388.7 ; fol. 156 389.4 - 390.4 ; fol. 173
XX						
XXI	402.14 - 405.1 (XXII) ; SI L/1 fol.166			395.2 - 395.8 ; Kha. i. 219 ; fol. 66 ; H 271 - 272	403.1 - 404.3 (XXII) ; fol. 175	

Table IV. (8)

Kn	F1	F2	F3	F4	F5	F6
XXI I XXV				397.9 - 399.4 ; Kha. ix. 42(9) ; fols. 80,83 ; H 213 - 214		
XXII	406.4 - 407.3 ; SI P/10 fol.433 407.4 - 408.3 ; SI P/10 fol.[434] 408.3 - 15 ; SI P/10 fol.[435] 409.1 - 410.2 ; SI P/10 fol.[436] 410.3 - 411.2 ; SI P/10 fol.[437] 411.2 - 412.3 ; SI P/10 fol.[438] 412.3 - 12 ; SI P/10 fol.[439] 413.1 - 10 ; SI P/10 fol.440 419.2 - 420.3 ; SI P/10 fol.446			403.6 - 403.9 ; Kha. i. 305 ; fol. 67 ; H 275 - 276 457.2 - 457.7 ; Kha. i. 305 ; fol. 67 ; H 275 - 276		408.14 - 409.10 ; Hoernle Mss. 142. SB. 12 ; H 215 - 216
XXIII	429.1 - 430.7 ; SI P/10 fol.455 434.3 - 435.7 ; SI P/10 fol.459			425.8 - 426.8 ; fols. 83,77 427.4 - 427.14 ; Kha. ix. 15 ; fol. 72 ; H 217 - 218		

Table IV. (9)

Kn	F1	F2	F3	F4	F5	F6
	435.7 - 436.7 ; SI P/10 fol.460			427.5 - 427.15 ; fol. 156 429.6 - 430.13 ; fol. 157 430.7 - 430.12 ; Kha. ix. 1,3 ; fol. 84 435.4 - 436.3 ; fol. 172 435.9 - 436.6 ; Kha. ix. 42(10) ; fol. 79 ; H 273 - 274		
XXIV	438.6 - 440.1 ; SI P/10 fol.46(2) 440.1 - 441.6 ; SI P/10 fol.463 442.7 - 443.8 ; SI P/9 4[13 443.8 - 444.11 ; SI P/9 4[14 444.11 - 445.9 ; SI P/9 4[15		444.12 - 446.10 ; Kha. i. 177 ; fol. 60 ; H 219 - 220, 456.1 - 458.5 (XXV) ; Kha. i. 177 ; fol. 60 ; H 221 - 222	441.6 - 441.14 ; Kha. i. 58. b ; fol. 47	445.4 - 446.7 ; fol. 171	
XXV	468.1 - 469.4 ; SI P/10 fol.481			459.9 - 461.1 ; fols. 77,83	463.6 - 464.4 ; fol. 175 466.11 - 468.2 ; fol. 171	
XXVI	477.2 - 478.9 ; SI P/8 fr. 481.9 - 482.8 ; SI P/9 fol.550		478.9 - 480.5 ; Ile-dang 09.	477.2 - 477.9 ; Kha. i. 222 b ; fol. 67		
XXVII				485.1 - 485.7 ; Kha. ii. 10 ; fol. 70		